

YANMAR

取扱説明書

ミニ耕うん機

ヤンマーミニ耕うん機

YANMAR

**YK450MR
YK650MR**



このたびは、お買い上げ
まことにありがとうございます。

! 当製品を安全に、また正しくお使いいただくため
に必ず本取扱説明書をお読みください。誤った
使いかたをすると、事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後も必ず製品の近くに保存してください。

ヤンマー株式会社
<https://www.yanmar.com>

0A211-JA0291
2015.06.19 (YTSK)
Japanese

ヤンマー株式会社

〒530-0014 大阪市北区鶴野町1番9号 梅田ゲートタワー
TEL (06)6376-6345 FAX (06)6373-4705

ヤンマーアグリジャパン株式会社

本社
〒530-8321 大阪市北区鶴野町1番9号 梅田ゲートタワー
TEL (06)6376-6433 FAX (06)6376-6288

北海道カンパニー
〒067-0051 北海道江別市工栄町10-6
TEL (011)381-2300 FAX (011)381-2330

東日本カンパニー
〒984-0011 宮城県仙台市若林区六丁の目西町8-1
斎喜センタービル 4F
TEL (022)288-8451 FAX (022)288-8452

関東甲信越カンパニー
〒360-0026 埼玉県熊谷市久下字上分1243-1
TEL (048)527-8811 FAX (048)527-8823

中部近畿カンパニー
〒524-0041 滋賀県守山市勝部2丁目3番9号
TEL (077)582-9300 FAX (077)582-9299

中四国カンパニー
〒710-0024 岡山県倉敷市亀山622番地
TEL (086)428-5151 FAX (086)428-5182

九州カンパニー
〒833-0001 福岡県筑後市大字一条535番地2
TEL (0942)53-0333 FAX (0942)53-0350

ヤンマー沖縄株式会社

〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山7丁目11番12号
TEL (098)898-3111 FAX (098)898-8082

2015 年 1 月 1 日現在

お客様メモ

購入日	平成	年	月	日
購入店名				

機体銘板とエンジン番号

機体銘板とエンジン番号には、アフターサービスをお受けになるときに必要な情報が記載されています。
機体銘板は、フレーム右側面（図 1）に貼り付けられています。
エンジン番号は、機体前方のエンジンクランクケース（図 2）に打刻されています。
※ 図 2は、ボンネットとリコイルカバーを外しています。（7 ページの「イラスト目次」を参照）

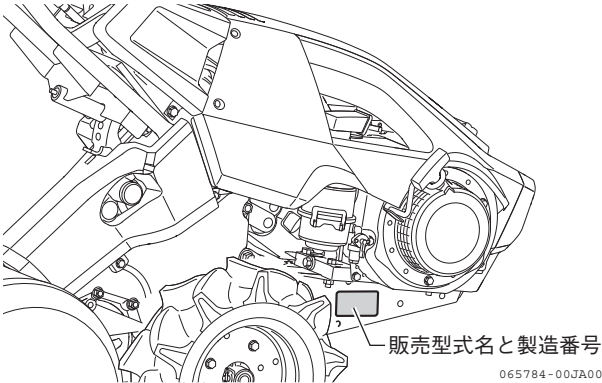


図 1 機体銘板

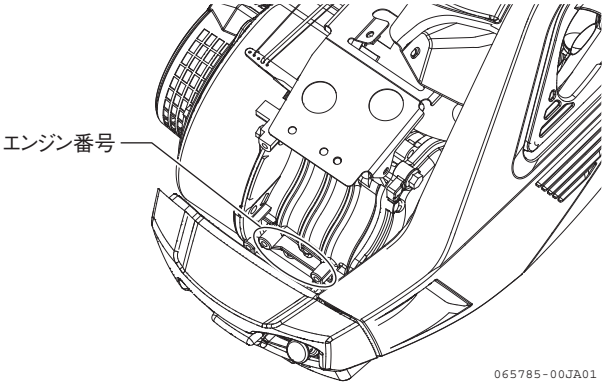


図 2 エンジン番号

販売型式名、製造番号などを記入してください

ミニ耕うん機の製造番号とエンジン番号は、アフターサービスをお受けになるときや、万一盗難の被害にあった場合などに必要となりますので、各銘板に記載されている販売型式名や製造番号などをつぎの表に記入してください。

販売型式名:	アタッチメント型式名および製造番号:
区分:	
製造番号:	
エンジン型式:	
エンジン番号:	

※ ご購入のミニ耕うん機によっては、該当しない項目もあります。
※ アフターサービス、保証については、63ページをご参照ください。

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、ヤンマーミニ耕うん機をお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、ミニ耕うん機の取り扱い方法と使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接し、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、必ずこの取扱説明書および、同梱されている「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」を本製品と共にお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、すみやかに当社の特販店、または JA にご注文ください。
- 安全に対する項目については、同梱されている「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」に記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店、または JA へご相談ください。
- 本書 1 ページの記入欄にミニ耕うん機の製造番号、エンジンの番号などを記入してください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載漏れなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

● このミニ耕うん機は、路上(公道)走行できません。

このミニ耕うん機は、ほ場内の作業を目的としており、小型特殊自動車の型式認定を受けておりません。
ほ場まで移動される場合は、トラック等に載せて運搬してください。

● このミニ耕うん機は、日本国内での使用を想定しています。

このミニ耕うん機は、日本国内のみでの使用を想定しており、海外に輸出したり、海外で使用することは想定しておりません。従って、当社の品質保証の適用範囲外となります。

説明記号の見かた



危険

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



警告

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。



注意

その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。

【重要】

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

【参考】

作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

本書の「左」や、「右」という記載は前進方向を見た状態での左側、右側を示します。

本製品の使用目的について

本製品は、ほ場の耕うん、うね立て、培土、除草などの管理作業用の作業機としてご使用ください。

使用目的以外の作業や改造などはしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また、保証の対象になりませんので、ご注意ください。

(詳細は、保証書をご覧ください。)

本製品の使用条件について

本製品は、ほ場の耕うん、うね立て、培土、除草などの管理作業用の作業機として設計、製造されています。

表の条件で使用するにより本来の性能を発揮します。

表 1 使用条件

温度	−5℃～40℃
高度	1500 m以下
傾斜度	11度(18 %)以下

型式と仕様について

本製品には、つぎの仕様があり、取扱説明書の内容で、型式・仕様によっては該当しない項目もあります。

表 2 型式と仕様

	本書での表記		走行部				ロータリー部					
			変速段数		タイヤ		変速段数			爪種類		
			前進2段 後進1段	前進3段 後進1段	3.50-7 標準 タイヤ	4.00-7 大径 タイヤ	正転 1段	正転1段 逆転1段	一軸 正逆転 1段	ナタ爪	ハイブ リッド 爪	ナタ爪 + 揚土爪
YK450MR	標準 タイヤ 仕様	標準 仕様	○		○		○			○		
YK650MR			○		○		○			○		
YK450MR, Z		Z 仕様	○		○				○	○		
YK650MR, Z			○		○				○	○		
YK450MR, UVH		UV 仕様	○		○			○			○	
YK650MR, UVT			○		○			○				○
YK650MR, UVH			○		○			○			○	
YK650MR, L	大径 タイヤ 仕様	標準 仕様	○			○	○			○		
YK650MR, ZL		Z 仕様	○			○			○	○		
YK650MR, Z2L		Z2 仕様		○		○			○	○		
YK650MR, UVTL		UV 仕様	○			○		○				○
YK650MR, UVHL			○			○		○			○	

運転操作のシンボルマーク

ミニ耕うん機を安全に能率よく操作、作業していただくために、つぎのシンボルマークをミニ耕うん機および取扱説明書の中で使用しています。シンボルマークの意味をよく理解していただき、安全にご使用ください。

表 3 シンボルマーク

	エンジン停止		ガソリン燃料		エンジン始動
---	--------	---	--------	---	--------

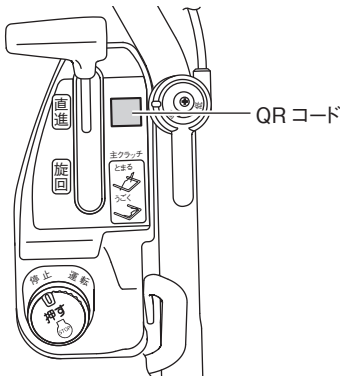
取り扱いやメンテナンスの方法などはつぎのサイトもご活用ください。

<https://www.yanmar.com/jp/redirect/qr/yk-mr/>

スマートフォンや携帯電話からは、つぎのQRコードを読み込むことができます。
読み込み方法などについては、各スマートフォンや携帯電話の販売店へご相談ください。



QRコードは本製品にも貼り付けられています。



065792-01JA00

目次

総目次

機体銘板とエンジン番号 1

販売型式名、製造番号などを記入してください..... 1

はじめに 2

1章 必ずお読みください 9

安全銘板..... 9

安全銘板の貼り付け位置.....9

安全銘板の手入れについて..... 10

2章 運転のしかた..... 11

各部のはたらきと使いかた..... 11

運転操作部..... 11

作業調節部..... 13

エンジン部..... 14

運転前の点検..... 16

点検のしかた..... 16

エンジンの始動と停止..... 17

始動のしかた..... 17

エンジンの停止のしかた..... 18

運転操作..... 19

発進のしかた..... 19

変速のしかた..... 20

旋回のしかた..... 21

停車のしかた..... 22

3章 作業のしかた..... 23

作業前の準備..... 23

ハンドル高さの調節のしかた..... 23

ワンタッチ切り替え尾輪のセットのしかた... 23

カバーの開閉のしかた< UV 仕様>..... 25

タイヤ取付幅の変更のしかた< UV 仕様>... 25

作業について..... 26

耕うん深さの調節のしかた..... 26

ほ場での作業のしかた

< 標準・Z・Z2 仕様>..... 27

ほ場での作業のしかた< UVT 仕様>..... 29

ほ場での作業のしかた< UVH 仕様>..... 34

4章 お手入れのしかた..... 37

作業後の手入れについて..... 37

作業後の手入れのしかた..... 37

各部の注油箇所..... 38

点検・整備のしかた..... 40

定期点検・整備の時期について..... 40

定期点検一覧表..... 41

燃料の点検・補給・排出のしかた..... 42

オイルの点検・交換のしかた..... 43

エアクリーナーの洗浄のしかた..... 46

燃料コシ器エレメントの掃除のしかた..... 46

主クラッチレバーの点検のしかた..... 47

旋回レバーの点検のしかた..... 47

増締めするところ..... 47

耕うん爪の点検・交換のしかた..... 48

点火プラグの点検・掃除・交換のしかた..... 52

タイヤの空気圧の調整のしかた..... 54

燃料パイプ・電気配線の点検のしかた..... 54

不調診断のしかた..... 55

5章 保管のしかた..... 56

保管するときは..... 56

特に長期保管するときは(1カ月以上)..... 56

保管のしかた..... 56

6章 輸送のしかた..... 58

トラックへの積み・降ろしのしかた..... 58

7章 仕様..... 59

主要諸元..... 59

8章 廃棄物の処理について..... 62

廃棄をするときは..... 62

ミニ耕うん機の廃棄..... 62

廃油の処理..... 62

ホース類の処理..... 62

9章 サービスと保証について..... 63

保証書は大切に保管してください..... 63

アフターサービスをお受けになるときは..... 63

10章 索引..... 64

11章 部品リスト(部品早見表)..... 65

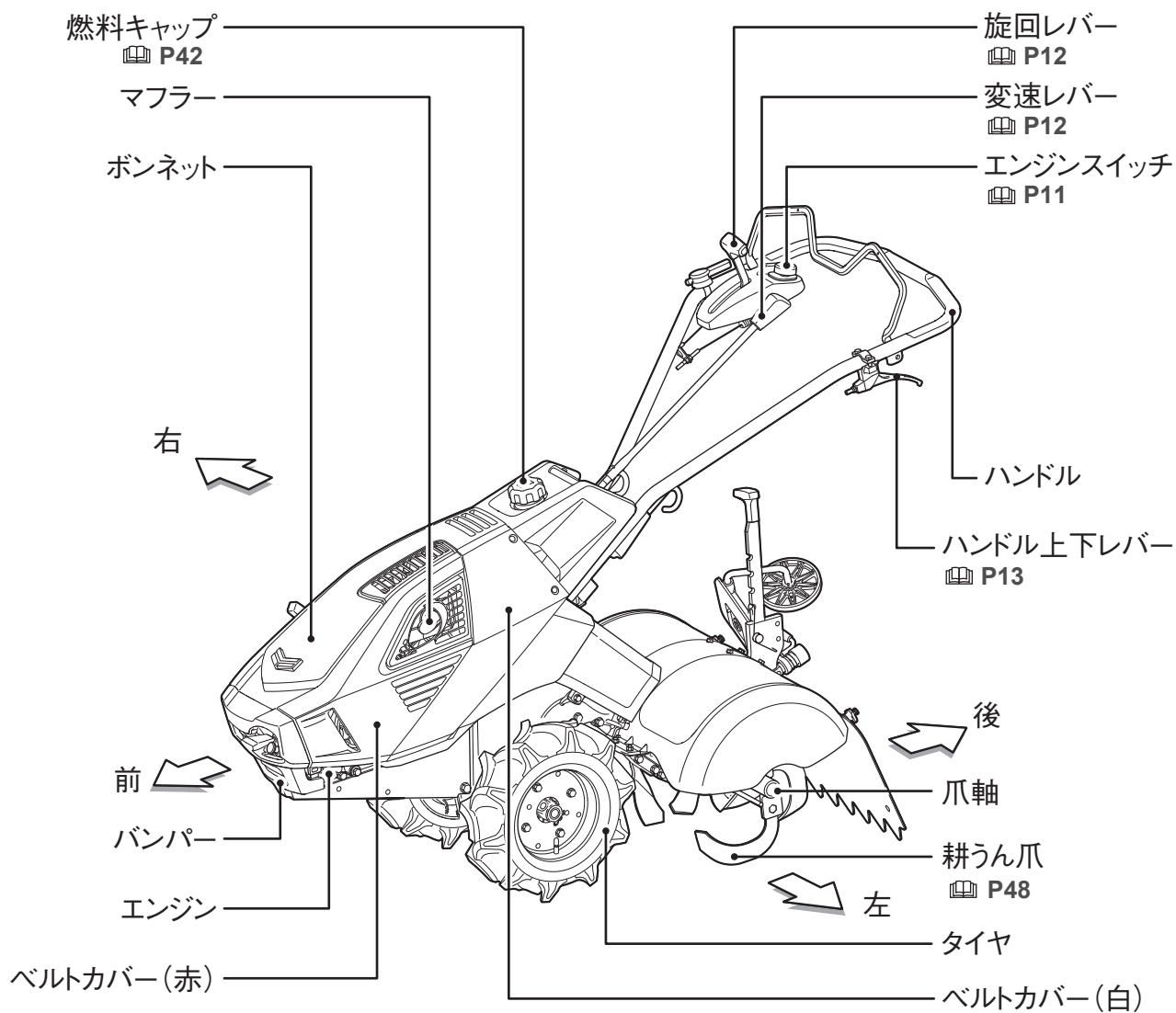
主要消耗部品..... 65

12章 用語解説..... 66

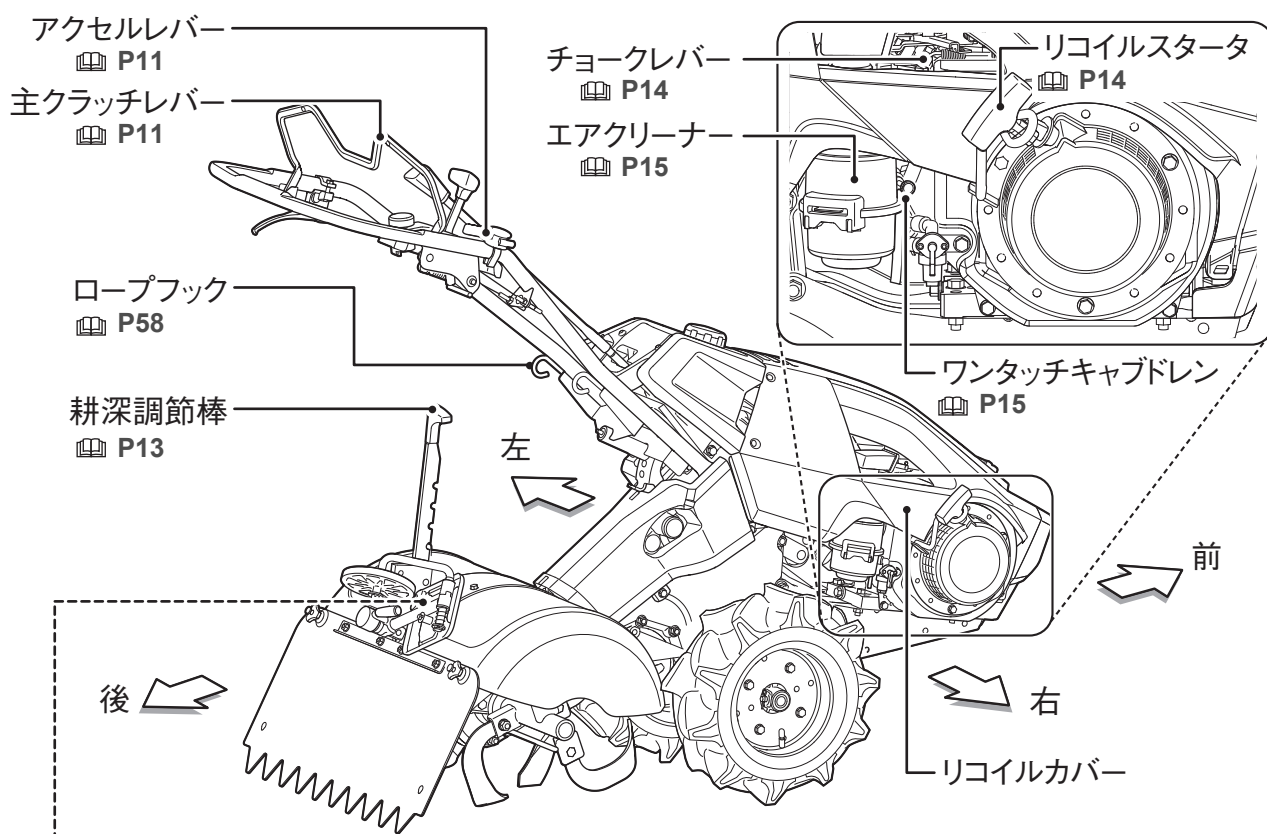
イラスト目次

外観

※ イラストは、YK650MR, Zをモデルにしています。

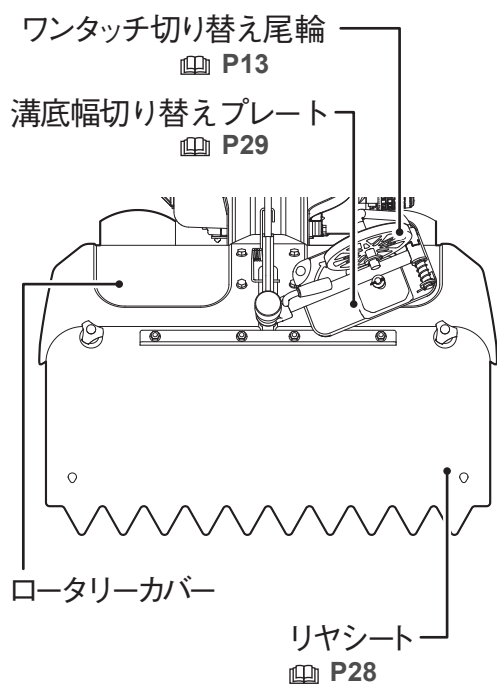


066611-00JA00



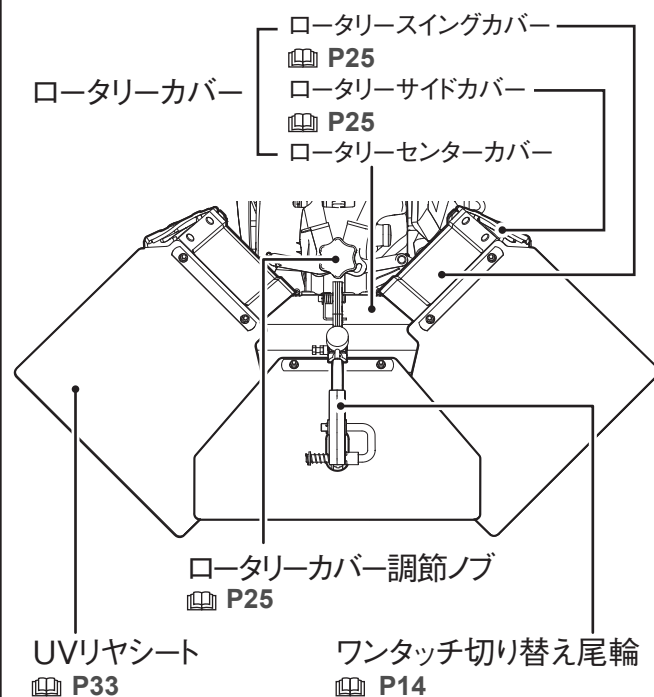
< 標準・Z・Z2 仕様 >

※イラストは、YK650MR, Z をモデルにしています。



< UV 仕様 >

※イラストは、YK650MR, UVH をモデルにしています。
 (イラストはロータリースイングカバーを開いた状態)



066612-00JA00

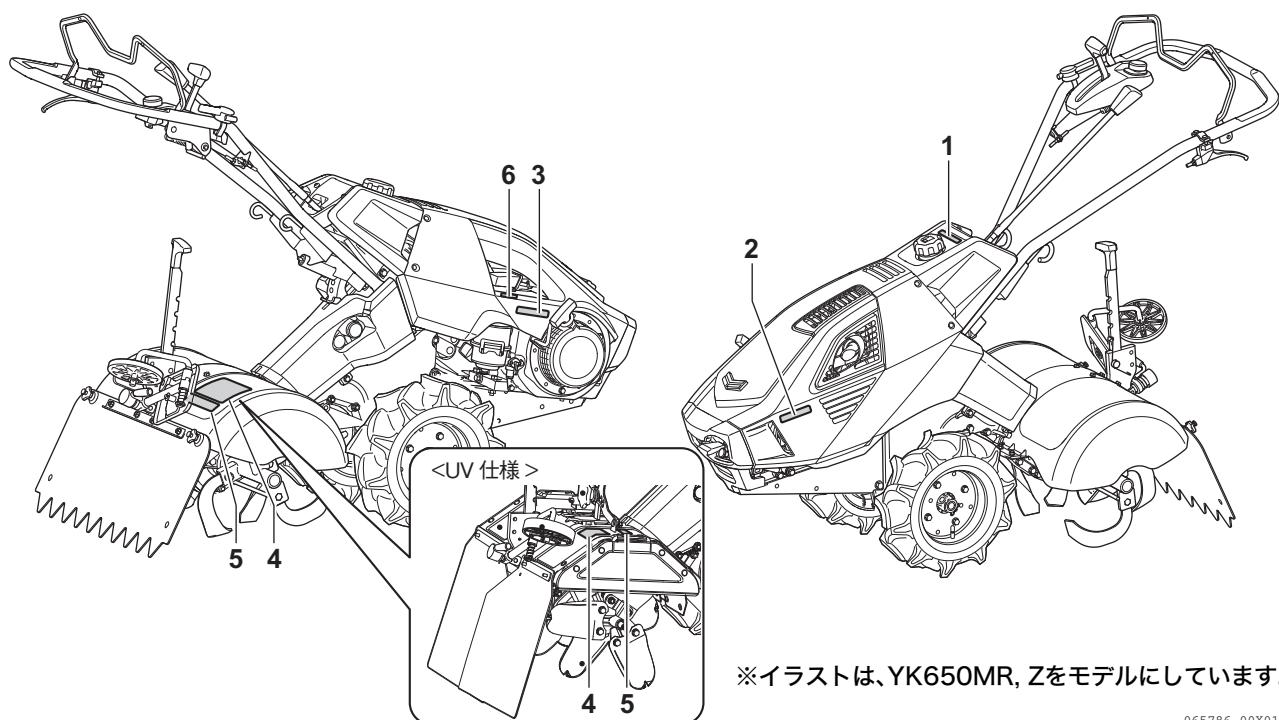
1章 必ずお読みください

安全銘板

安全銘板の貼り付け位置

安全銘板の貼り付け位置を示したものです。

安全銘板には、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。必ず作業をはじめる前に読んでください。常に汚れや破損のないように保ち、もし破損、紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



1. 160692-07460 ラベル(火気厳禁)

 危険	火気厳禁 ●給油口に火を近づけると火災になるおそれがあります。●給油中は、エンジンを停止してください。 160692-07460	ガソリン
---	--	------

2. 1A2260-87500 注意(マフラー高温)

 注意	マフラー高温注意 さわるとやけどをするおそれがあります。 1A2260-87500
---	---

3. 1A2920-86500 警告(排ガス)

 警告	室内および換気の悪い場所での運転は排ガスが充満し、人体に有害です。 1A2920-86500
---	--

5. 1A2740-86340 注意(正逆)

 注意	 正転 ●爪の向きと回転方向を間違わないように注意してください。間違えたら思わぬケガをするおそれがあります。
	 逆転 ●機種によっては逆転がない場合があります。 1A2740-86340

4. 1A2740-86351 ラベル(PL)

 警告	 ロータリの回転部に接触するとケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。
	 ●後進時は後ろを確認してください。 ●障害物と機械との間にはさまれるおそれがあります。 ●機械を停止させるためにハンドルから手をはなしてください。
 注意	 点検時エンジン停止 ●取扱説明書をよく読んで安全に作業してください。 ●エンジン始動時はかならず主クラッチを「切」にしてください。 ●後進時は転倒などによりケガをするおそれがあります。 ●後進時は後方に十分注意してください。
	 ●点検整備時はエンジンを停止し手袋を着用してください。 ●守らないとケガをするおそれがあります。 ●ロータリの回転中は固い物があると本体が急加速(ダッシュ)するおそれがあります。 ●その時はロータリ部が宙に浮くまでハンドルを持ち上げてください。 1A2740-86351

1

必ずお読みください



6. 1A2920-86510 ラベル(チョーク注意)



安全銘板の手入れについて

- 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石けん水を付けた布でふき、やわらかい布で水分をふき取ってください。
- 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。はがれるおそれがあります。
- 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。
安全銘板はお買い上げいただいた特販店、またはJAにご注文ください。

1

必ずお読みください



各部のはたらきと使いかた

運転操作部

ハンドル部周辺のレバー、スイッチについて説明します。

主クラッチレバー

エンジンからの動力を伝えたり、切り離したりするときに使用します。
主クラッチレバーを握ると、クラッチが入ります。

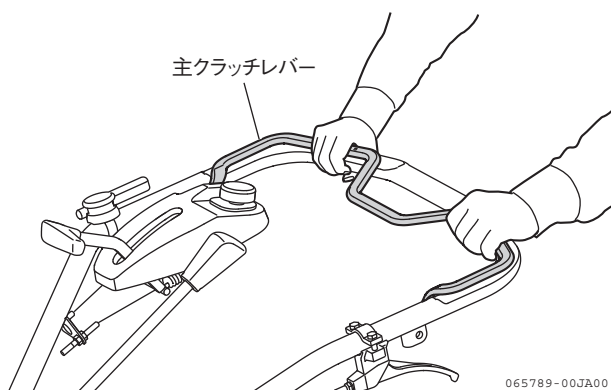


図 2-1 主クラッチレバー「入」

主クラッチレバーを放すと、クラッチが切れます。

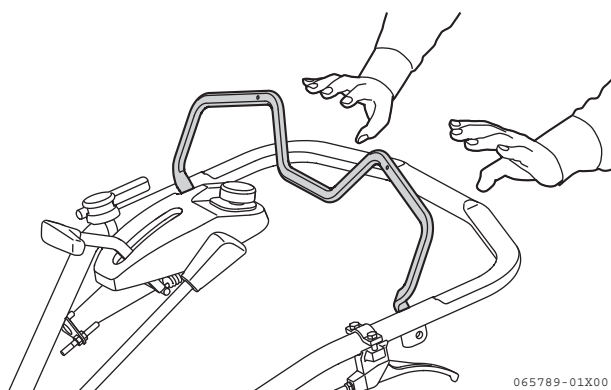


図 2-2 主クラッチレバー「切」

【参考】

緊急時には、すぐに主クラッチレバーから手を放し、走行やロータリーの回転を停止させてください。

アクセルレバー

エンジン回転を調整するときに使用します。
「低」側……エンジン回転が遅くなります。(低速)
「高」側……エンジン回転が速くなります。(高速)

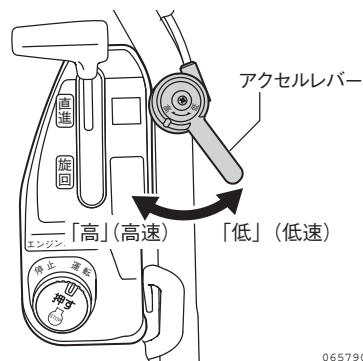


図 2-3 アクセルレバー

エンジンスイッチ

エンジンを始動、停止するときに使用します。

■ エンジン始動時

エンジンスイッチを押しながら「運転」位置へ回すと、エンジンが始動します。
「運転」位置のとき、エンジンスイッチは浮き上がります。

■ エンジン停止時

エンジンスイッチを押すと、「停止」位置に戻り、エンジンが停止します。

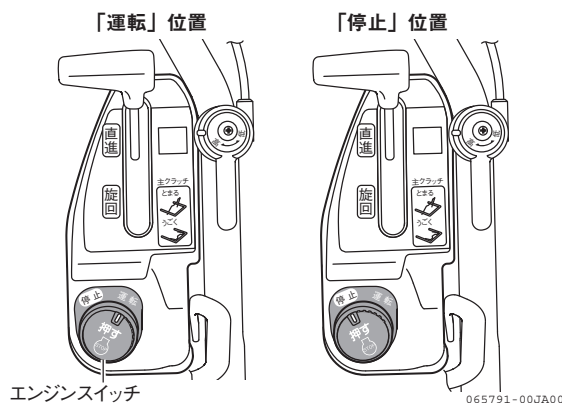


図 2-4 エンジンスイッチ

【参考】

緊急時には、エンジンスイッチを押し、エンジンを停止させてください。

旋回レバー

タイヤのデフ/デフロック、ロータリーの回転/停止が切り替わります。(66 ページの「12章 用語解説」を参照)

「直進」位置…デフがロックされ、直進性が増します。

ロータリーが回転します。(変速レバーが「作業」、「正転」、「逆転」位置のとき)

「旋回」位置…左右のタイヤに回転差が生じ、旋回しやすくなります。

ロータリーは回転しません。

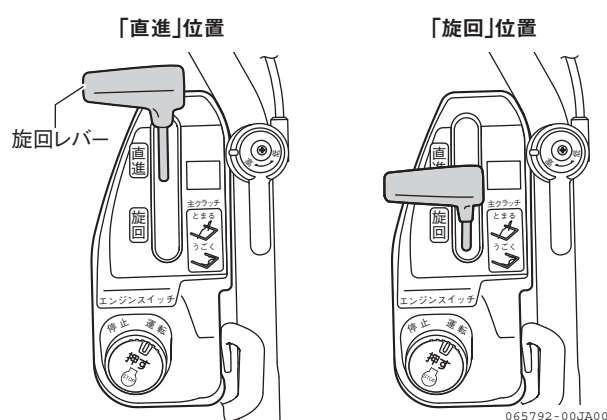


図 2-5 旋回レバー

【参考】

- 片側のタイヤ（車輪）がスリップして、走行しにくいときは、旋回レバーを「直進」位置にすると、左右のタイヤ（車輪）が同じ回転になり、けん引力が増します。
- 変速レバーが「作業」、「正転」、「逆転」位置のときのみロータリーが回転します。
- アユミ板などの滑りやすいところでは旋回レバーを「直進」位置にしてください。
- 主クラッチレバーが「入」位置でも旋回レバーを操作することができます。

変速レバー

▲ 注意

作業時以外は、変速レバーを必ず移動変速（低速・中速・高速・後進）にして走行してください。ロータリーの回転でけがをするおそれがあります。

走行速度とロータリー速度を変更するときに使用します。

<標準・Z仕様>

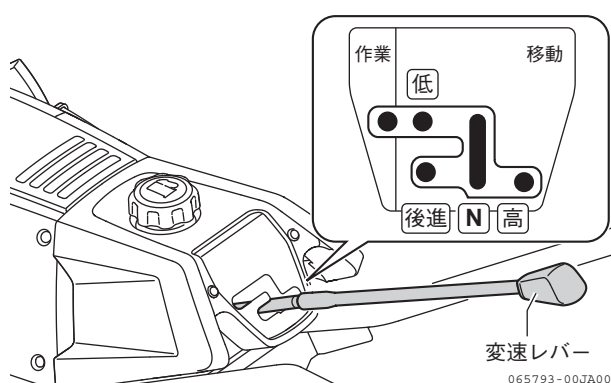


図 2-6 変速レバー（標準・Z仕様）

<Z2仕様>

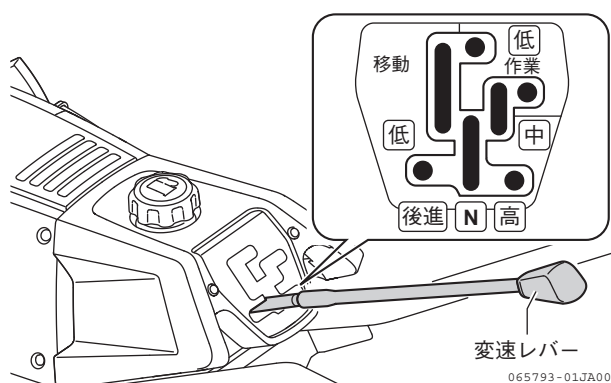


図 2-7 変速レバー（Z2仕様）

<UV仕様>

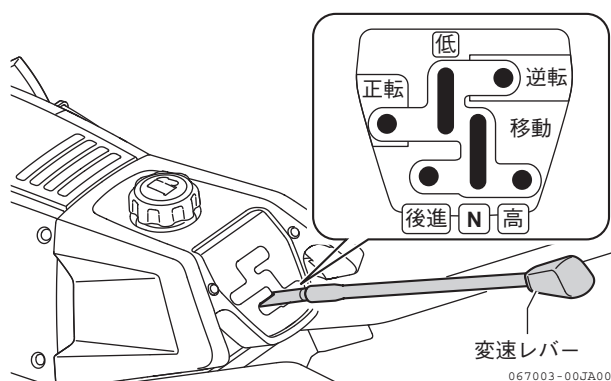


図 2-8 変速レバー (UV仕様)

ハンドル上下レバー

作業者の体格や作業の種類に合わせて、ハンドルを使いやすい高さに調整するときに使用します。上下4段階に調節できます。

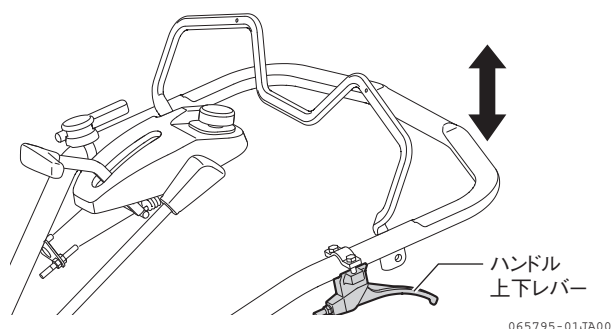


図 2-9 ハンドル上下レバー

ハンドル上下レバーを握ったままハンドルを上下に動かし、適切な位置でレバーを放します。ハンドルがその位置で固定されます。

【参考】

耕うん作業時は、腰の高さに調節すると作業がしやすくなります。

作業調節部

ロータリー周辺の調節部について説明します。

耕深調節棒

耕うん深さを調節するときに使用します。
 耕深調節棒を上げる…耕うん深さが深くなります。
 耕深調節棒を下げる…耕うん深さが浅くなります。
 ※ イラストは、YK650MR, Zをモデルにしています。

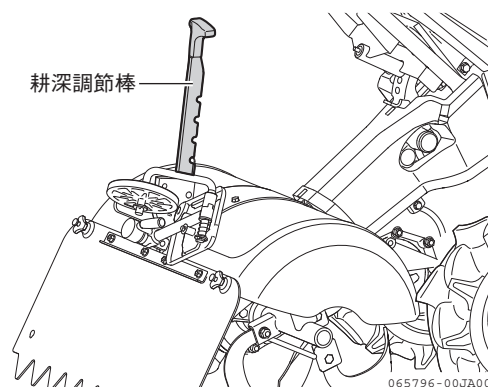


図 2-10 耕深調節棒

ワンタッチ切り替え尾輪

耕うん、うね立て、移動時の切り替えに使用します。
 耕うん時…… 尾輪を右上にセットします。
 うね立て時… 尾輪を下にセットします。
 移動時……… 下にセットした状態で、先端の尾輪部を接地させます。

<標準・Z・Z2仕様>

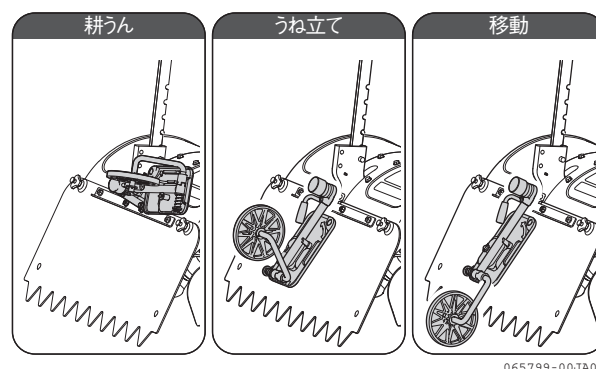


図 2-11 ワンタッチ切り替え尾輪 (標準・Z・Z2仕様)

<UV仕様>

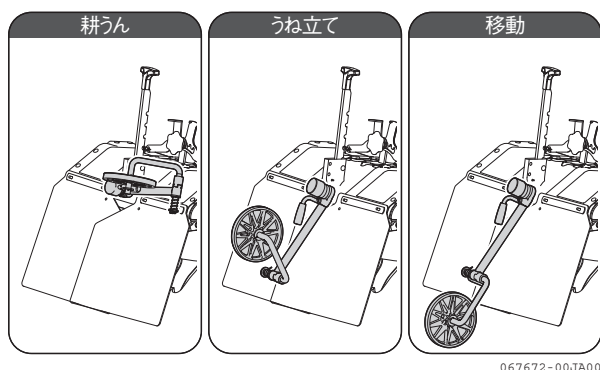


図 2-12 ワンタッチ切り替え尾輪 (UV仕様)

2

運
転
の
し
か
た

エンジン部

エンジン部のレバー等について説明します。

リコイルスタータ

エンジンを始動するときに使用します。

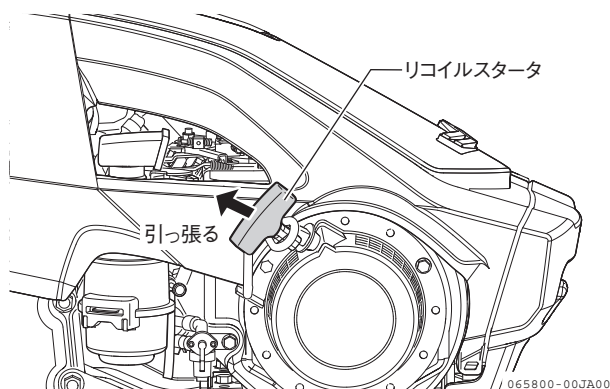


図 2-13 リコイルスタータ

チョークレバー

エンジンが冷えている場合、始動するときに使用します。

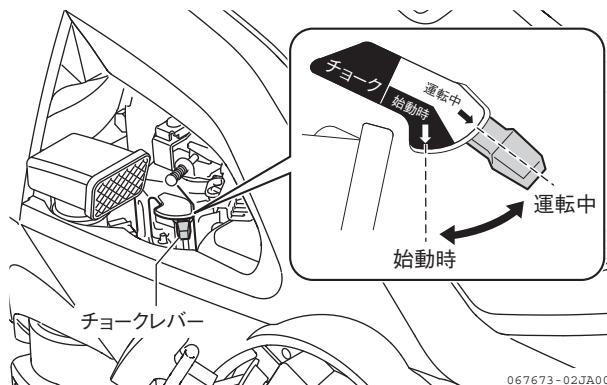


図 2-14 チョークレバー

「運転中」位置…通常の運転時、作業時の位置です。
「始動時」位置…エンジンが冷えているときの始動時の位置です。

燃料コックレバー

エンジンへの燃料供給、停止の切り替えを行うときに使用します。

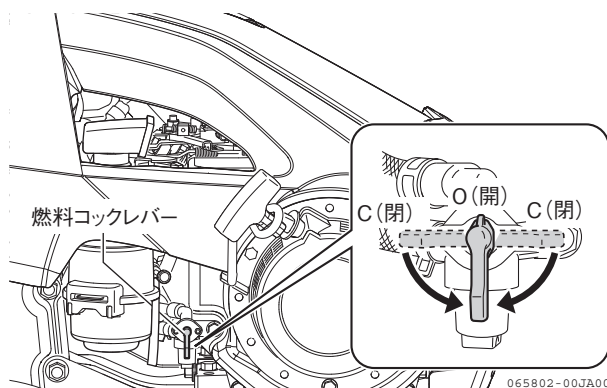


図 2-15 燃料コックレバー

「O (開)」位置…燃料がエンジンへ流れます。
「C (閉)」位置…燃料がエンジンへ流れません。
エンジン始動時、運転時は燃料コックレバーを「O (開)」位置に、エンジン停止時は「C (閉)」位置にします。

ワンタッチキャブドレン

キャブレター内の燃料を抜くときに使用します。

(66 ページの「12章 用語解説」を参照)

キャブドレンを引くと燃料がドレンホースから流れ出ます。

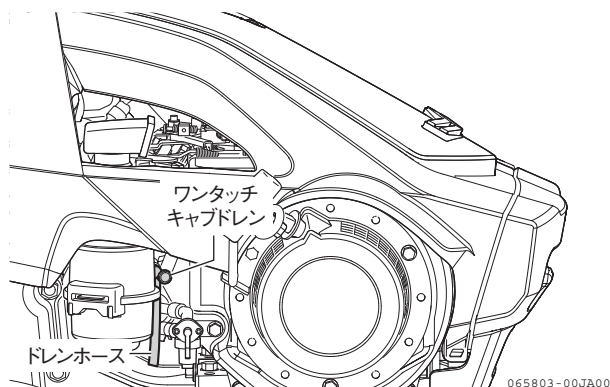


図 2-16 ワンタッチキャブドレン

エアクリーナー

エンジンに供給する空気をきれいにします。

定期的に洗浄してください。

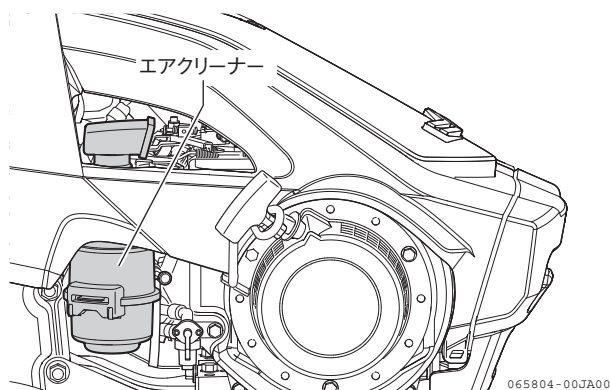


図 2-17 エアクリーナー

運転前の点検

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明をしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。燃料に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検をするときは、交通の危険がなく、平たんで安定した場所に駐車させ、エンジンを停止してください。
- エアクリナーのエレメントは、必ず取り付けてから始動・運転をしてください。逆火により炎が噴き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 破損しているカバー類がないか、必ず作業前に確認してください。カバー類が破損した状態で使用すると、ミニ耕うん機に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。
- 使用前には必ず点検をしてください。特にクラッチ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動することを確認してください。作動しないときは、確実に作動するように調整してください。

【重要】

- このミニ耕うん機は、小型特殊自動車の認定を受けていません。公道走行はしないでください。
- ご購入のミニ耕うん機によっては、爪軸に安全ピンを使用しています。
作業中、爪軸に大きな衝撃が加わった場合、安全ピンが折れることで、ミニ耕うん機の故障を防ぎます。ご購入のミニ耕うん機に合った安全ピンを使用してください。(65 ページの「主要消耗部品」を参照)

点検のしかた

運転・作業を行う前に、つぎの点検を行ってください。

表 2-1 点検のしかた

点検箇所	参照ページ
各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか。	47
燃料は入っていますか。 燃料漏れ、燃料パイプの損傷はありませんか。	42
エンジンオイルは規定量入っていますか。 エンジンオイルの汚れ、油漏れはありませんか。	43
走行ミッションオイルは規定量入っていますか。 走行ミッションオイルの油漏れはありませんか。	45
エアクリナーの汚れはありませんか。	46
マフラーなどの過熱部分のホコリやゴミはありませんか。	—
配線の被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか。	—
各操作レバーの作動状態は正常ですか。	11～13、47
エンジンスイッチを停止位置にして、エンジンが停止しますか。	11

エンジンの始動と停止

始動のしかた

⚠ 警 告

- エンジンの始動および運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動、運転する場合は、十分に換気をしてください。
- エンジンを始動する前に、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。

エンジン始動前の確認・準備

1. 燃料コックレバーを「O（開）」位置にします。
(図 2-18)

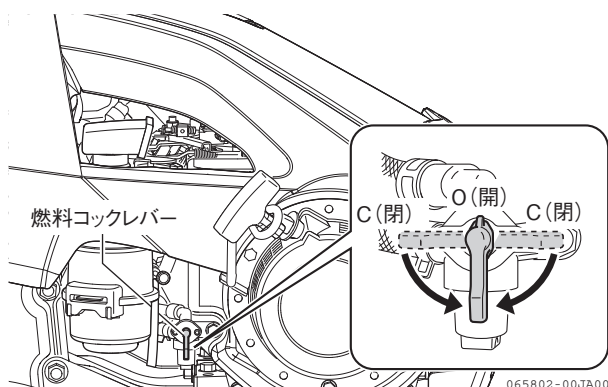


図 2-18 燃料コックレバー

2. 変速レバーを「N（中立）」位置にします。
(図 2-19、図 2-20、図 2-21)

<標準・Z仕様>

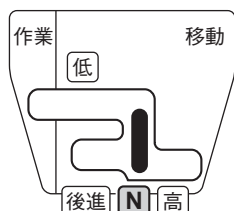
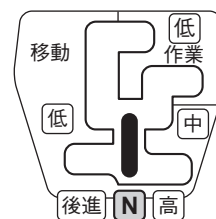


図 2-19 変速レバー N位置（標準・Z仕様）

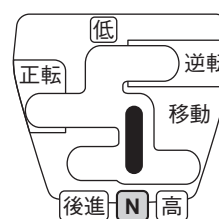
<Z2仕様>



067722-00JA00

図 2-20 変速レバー N位置（Z2仕様）

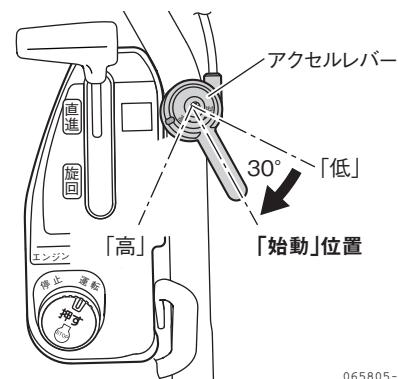
<UV仕様>



067723-00JA00

図 2-21 変速レバー N位置（UV仕様）

3. アクセルレバーを「始動」位置にします。
(図 2-22)



065805-00JA00

図 2-22 アクセルレバー

4. チョークレバーを「始動時」位置にします。
(エンジンが冷えている場合のみ) (図 2-23)

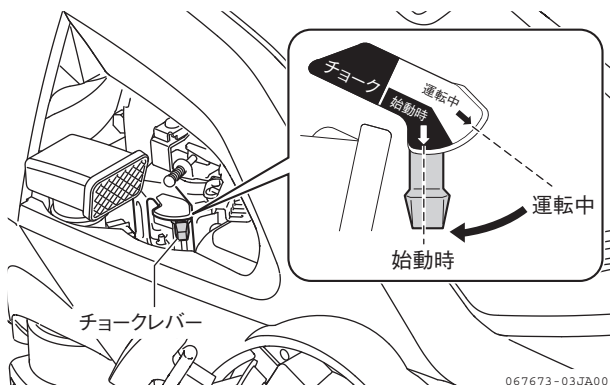


図 2-23 チョークレバー

【重要】

- エンジン始動後は、チョークレバーを確実に「運転中」位置に戻してください。
- エンジン停止後すぐに始動するときは、「運転中」位置にしてください。
守らないと、エンジンに不具合が生じる場合があります。

エンジン始動操作のしかた

1. エンジンスイッチを「運転」位置にします。
2. リコイルスタータを引っ張ります。(図 2-24)
エンジンが始動したら、リコイルスタータをゆっくりと元に戻します。

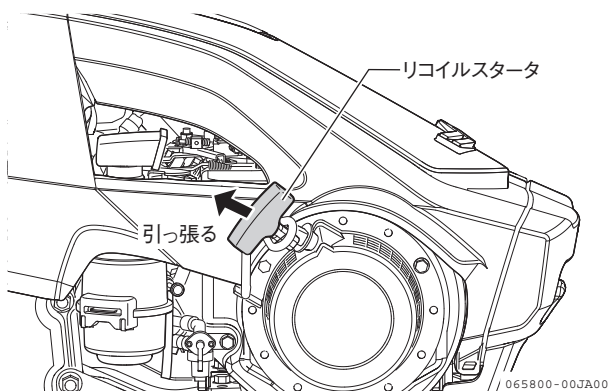


図 2-24 リコイルスタータ

3. エンジンの回転状態を見ながらチョークレバーを徐々に「運転中」位置にします。

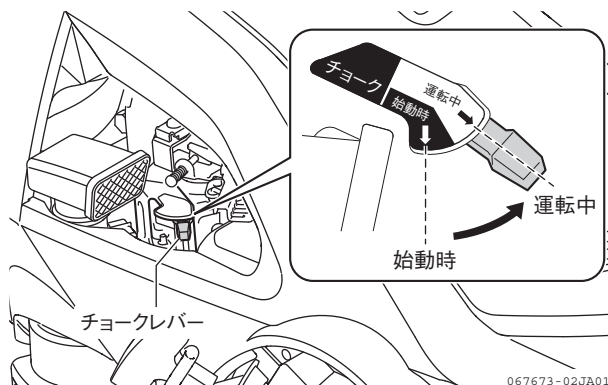


図 2-25 チョークレバー

【重要】

- リコイルスタータを何回も引っ張り続けると、燃料の吸いすぎとなり、始動が困難になります。そのときは、少し時間をおいてから始動してください。
- 運転中は、リコイルスタータを引っ張らないでください。

【参考】

リコイルスタータを2～3回引っ張ってもエンジンが始動しないときは、チョークレバーを「運転中」位置にして、再度リコイルスタータを引っ張ります。

4. アクセルレバーを「低」位置にします。エンジン回転が下がります。
5. 約 5 分間、エンジンをかけたままにしておきます。(暖機運転)

【重要】

冬季など、外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング(回転ムラ)を起こす場合があります。

そのような場合は、アクセルレバーを「高」(高速)側と「低」(低速)側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

エンジンの停止のしかた

1. アクセルレバーを「低」位置にします。
2. エンジンスイッチを押して、「停止」位置にします。エンジンが停止します。
3. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。

運転操作

ミニ耕うん機の発進から停車までの操作方法を説明します。

⚠ 警 告

- 移動時は、変速レバーを「低（低速）」、「高（高速）」、「N（中立）」、「後進」、「中（中速）」のいずれかの位置にして、ロータリーの爪を回転させずに走行してください。
- ミニ耕うん機の上に乗ったり、物を載せたりしないでください。
- 坂道をやむを得ず走行するときは、転倒やスリップに注意し、最低速度で移動してください。このとき、変速レバーを「N（中立）」位置にしたまま走行しないでください。
また、旋回レバーを「旋回」位置にせず、方向を変えるときは、ハンドルを振って行ってください。
- 溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。
- 坂道や凹凸、カーブの多い場所は低速で移動してください。
- 後進するときは、アクセルレバーを「低」位置にし、周囲に十分注意してください。

⚠ 注 意

溝やあぜを横断したり、軟弱な場所を通るときは、エンジン回転を低速にしてください。

発進のしかた

1. 変速レバーを「低（低速）」、「高（高速）」、「後進」、「中（中速）」のいずれかの位置にします。
(図 2-26、図 2-27、図 2-28)

<標準・Z仕様>

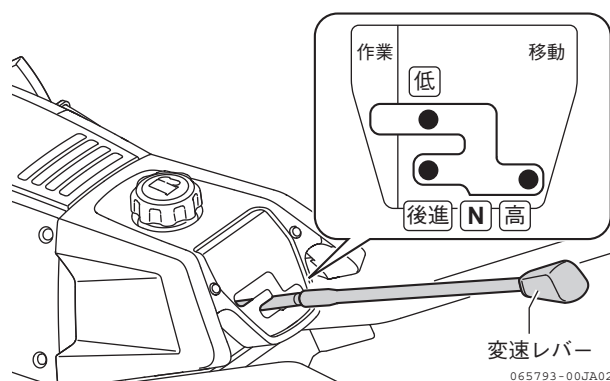


図 2-26 変速レバー（標準・Z仕様）

<Z2仕様>

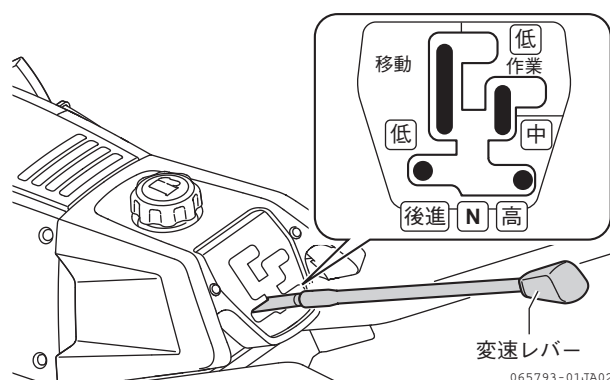


図 2-27 変速レバー（Z2仕様）

<UV仕様>

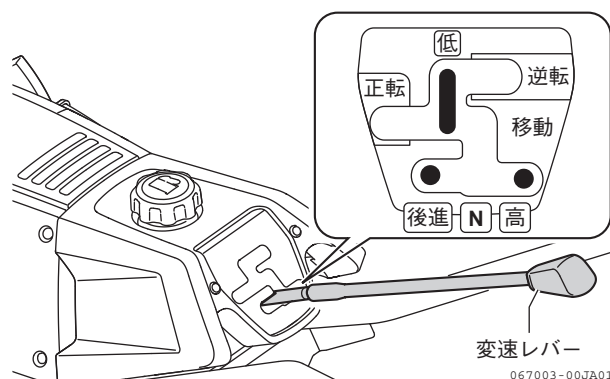


図 2-28 変速レバー（UV仕様）

- 2. アクセルレバーでエンジン回転を調整します。
- 3. 主クラッチレバーを握ります。
クラッチがつながり、ミニ耕うん機が動き出します。

【参考】

主クラッチレバーから手を放すとクラッチが切れ、ミニ耕うん機は停止します。危険を感じたら、主クラッチレバーから手を放してください。

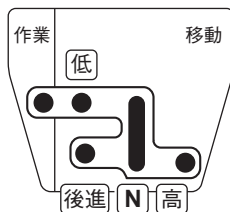
変速のしかた

⚠ 注 意

変速をするときは、必ず主クラッチレバーを「切」位置にして、ミニ耕うん機が停止してから行ってください。主クラッチレバーが「入」位置のまま変速すると、思わぬ事故やけがををするおそれがあります。

- 1. 主クラッチレバーを放します。
クラッチが切れ、ミニ耕うん機が停止します。
- 2. 変速レバーを希望の変速位置に入れます。
- 3. 主クラッチレバーを握ります。
クラッチがつながり、ミニ耕うん機が再発進します。

<標準・Z仕様>



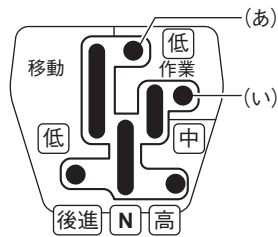
067674-00JA00

図 2-29 変速ガイド（標準・Z仕様）

表 2-2 変速段と走行速度

	「移動」	「作業」
「低」	移動 トラックへ積み込むとき	耕うん うね立て
「高」	移動	—
「後進」	移動 トラックから降ろすとき	—

<Z2仕様>



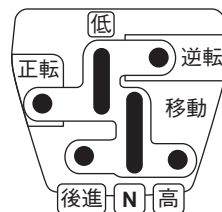
067675-00JA00

図 2-30 変速ガイド（Z2仕様）

表 2-3 変速段と走行速度

	「移動」	「作業」	
「低」	移動 トラックへ積み込むとき	(a)	耕うん うね立て
「中」	移動	(i)	耕うん 粗起こし うね立て 中耕
「高」	移動	—	
「後進」	移動 トラックから降ろすとき	—	

<UV仕様>



067718-00JA00

図 2-31 変速ガイド（UV仕様）

表 2-4 変速段と走行速度

	「移動」	「正転」	「逆転」
「低」	移動 トラックへ積み込むとき	耕うん うね立て(V溝) 中耕	うね立て(U溝) 中耕
「高」	移動	—	
「後進」	移動 トラックから降ろすとき	—	

【参考】

変速レバーが「低（低速）」、「高（高速）」、「後進」、「中（中速）」位置では、主クラッチ「入」位置でもロータリーは回転しません。

旋回のしかた

⚠ 注意

- 作業中に旋回するときは、旋回レバーを「旋回」位置にして、ロータリーの回転を止めてから旋回してください。ロータリーが回転していると、回転部に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。
- 坂道では、主クラッチを「切」位置にしないでください。
また、変速レバーを「N（中立）」位置にしないでください。
- 旋回するときは、ハンドルを持ち上げて旋回してください。ハンドルを持ち上げずに旋回すると、思わぬけがをするおそれがあります。

1. 旋回レバーを「旋回」位置にします。(図 2-32)
(デフが解除され、ロータリーが停止します。)

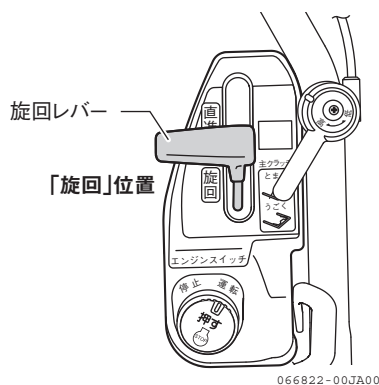


図 2-32 旋回レバー（旋回）

2. アクセルレバーで低速にします。

3. ハンドルを持ち上げて旋回します。(図 2-33)

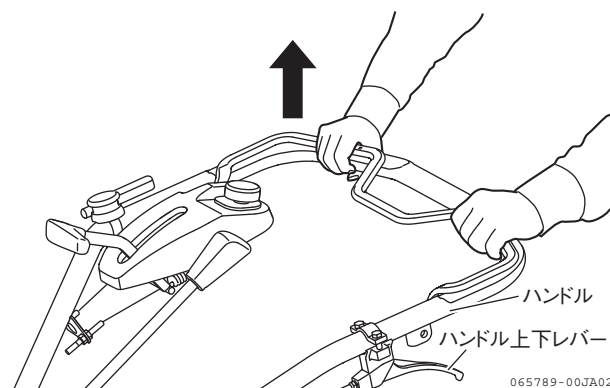


図 2-33 ハンドル（旋回）

【参考】

作業中に、より旋回しやすくするには、いったんハンドル上下レバーでハンドルを下げた状態で行います。このとき、主クラッチレバーから手を放し、ミニ耕うん機を停止してから行ってください。

4. 旋回後は、旋回レバーを「直進」位置にします。
(図 2-34)



図 2-34 旋回レバー（直進）

停車のしかた

⚠ 注 意

平たんで安定した場所に停車し、エンジンを止めてください。守らないと、ミニ耕うん機が動き出し、けがをするおそれがあります。

1. 主クラッチレバーを放します。
クラッチが切れ、ミニ耕うん機が停止します。
(図 2-35)

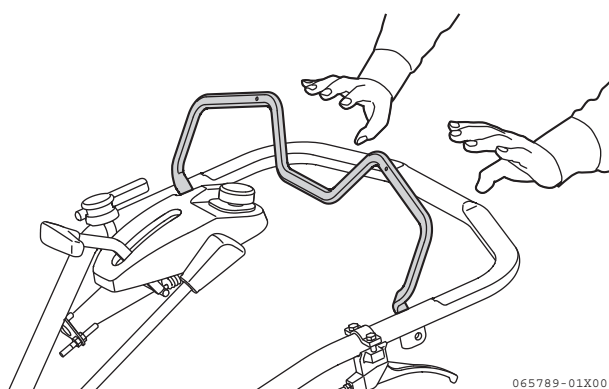


図 2-35 主クラッチレバー「切」

2. アクセルレバーを「低」位置にします。エンジン回転が下がります。(図 2-36)

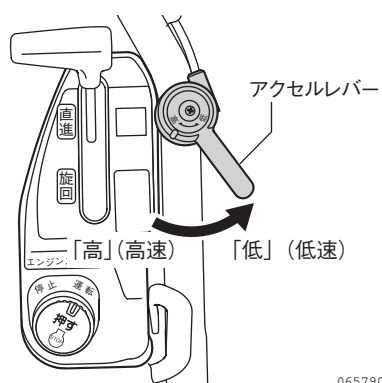


図 2-36 アクセルレバー

3. 変速レバーを「N (中立)」位置にします。

4. エンジンスイッチを押して、「停止」位置にします。エンジンが停止します。(図 2-37)

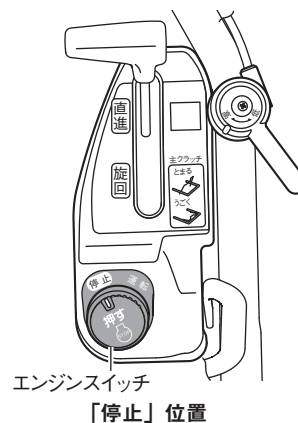


図 2-37 エンジンスイッチ (停止)

5. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。
(図 2-38)

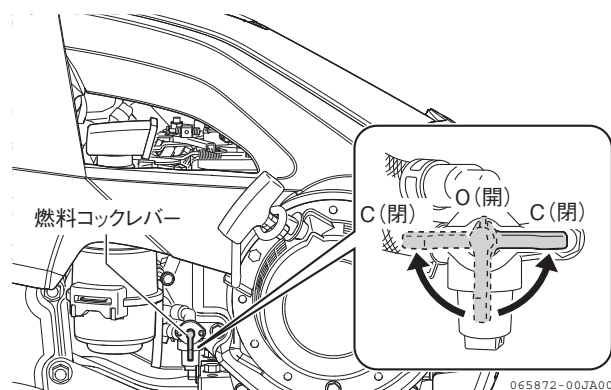


図 2-38 燃料コックレバー

3章 作業のしかた

作業前の準備

ハンドル高さの調節のしかた

⚠ 警告

ハンドルの高さを調節するときは、主クラッチレバーから手を放して、ミニ耕うん機を停止してから行ってください。ロータリーが回転したときに、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

ハンドルの高さを調節するときは、ミニ耕うん機のロータリー側を接地させた状態で行ってください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。

ハンドル高さは作業者の体格、作業の種類に合わせて、上下4段階に調節できます。

1. ハンドル上下レバーを握ったままハンドルを上下に動かし、適切な位置にします。(図 3-1)

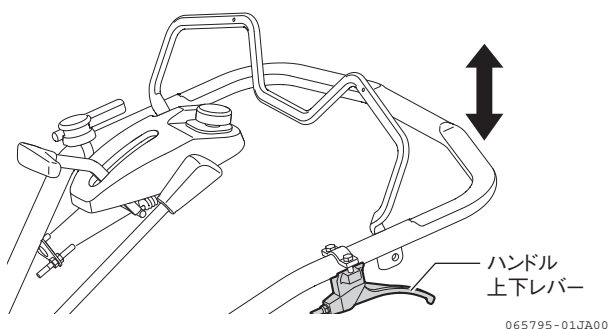


図 3-1 ハンドル上下レバー

2. ハンドル上下レバーを放すと、その位置でハンドルが固定されます。
このとき、ハンドルが固定されていることを確認してください。

ワンタッチ切り替え尾輪のセットのしかた

尾輪の位置は作業（耕うん、うね立て、移動）に応じて変更します。

※イラストは、YK650MR, Zをモデルにしています。

耕うん作業の場合

耕うん作業をするときは、セットレバーを手前に引き、尾輪を右上にセットします。(図 3-2)

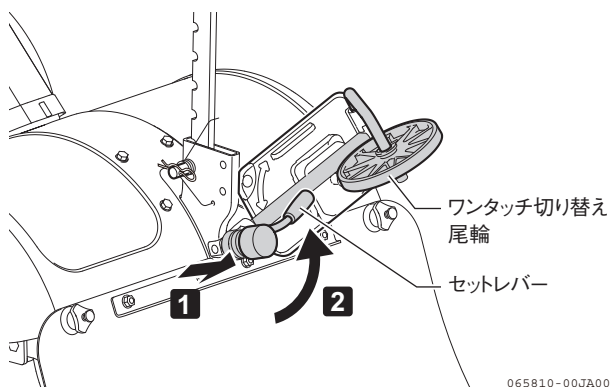


図 3-2 尾輪（耕うん作業）

うね立て作業の場合

うね立て作業をするときは、セットレバーを手前に引き、尾輪を下にセットします。(図 3-3)

<標準・Z・Z2仕様>

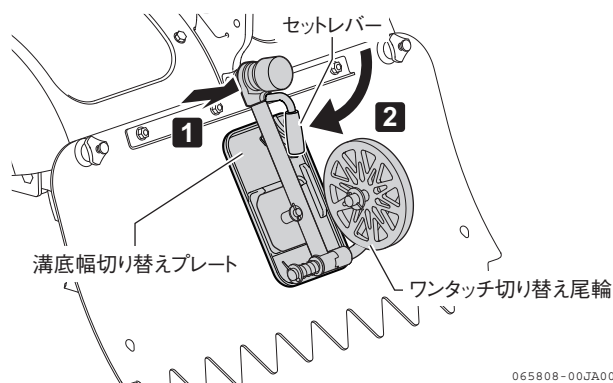


図 3-3 尾輪（うね立て作業）

【参考】

溝底幅切り替えプレートの位置は、用途に合わせて溝幅を切り替えるときに変更します。

詳しくは、29ページを参照してください。

<UV仕様>

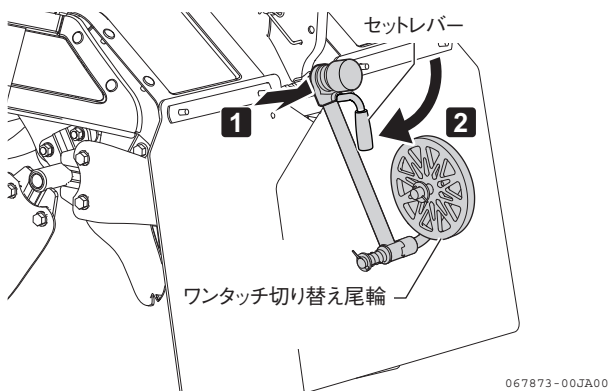


図 3-4 尾輪（うね立て作業）

2. 尾輪を右側に引き、下側にロックを外した状態にします。(図 3-6)

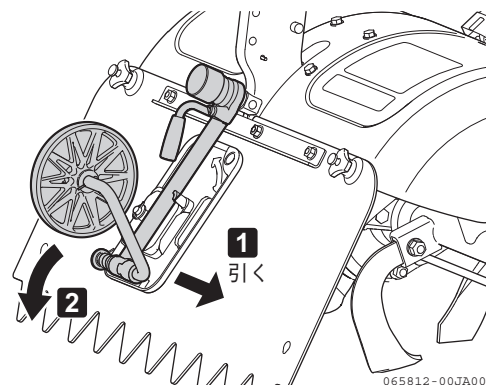


図 3-6 尾輪（移動2）

3. ハンドルを持ち上げます。

尾輪が接地します。このとき、尾輪がロックされていることを確認してください。(図 3-7)

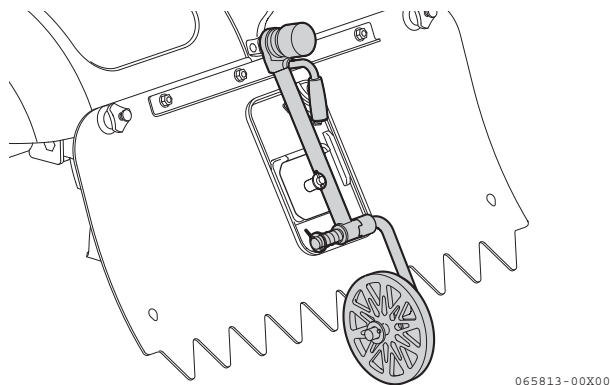


図 3-7 尾輪（移動3）

3

作業のしかた

移動の場合

⚠ 注意

- 旋回するときは、ハンドルを持ち上げて旋回してください。ハンドルを持ち上げずに旋回すると、思わぬけがをするおそれがあります。
- 接地させた尾輪を元に戻すときは、ハンドル端部を手で支えながら行ってください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。

移動するときは、尾輪を接地させます。(図 3-7)
爪が接地しないため、ハンドルを持ち上げずに移動することができます。

1. セットレバーを手前に引き、尾輪を下にセットします。(図 3-5)

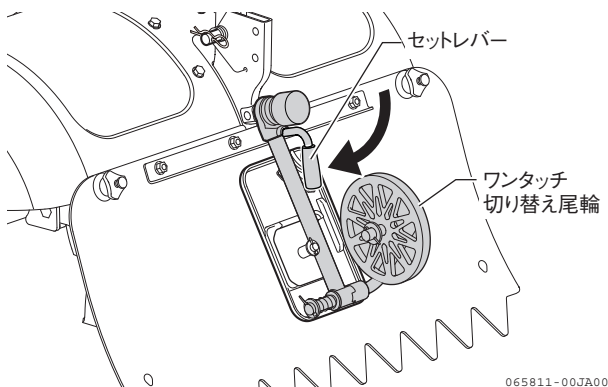


図 3-5 尾輪（移動1）

カバーの開閉のしかた<UV仕様>

⚠ 注意

ロータリースイングカバー、ロータリーサイドカバーを開閉するときは、手をはさまないように注意してください。

■ ロータリースイングカバーを開閉するとき

1. ロータリー中央部のロータリーカバー調節ノブをゆるめます。(図 3-8)

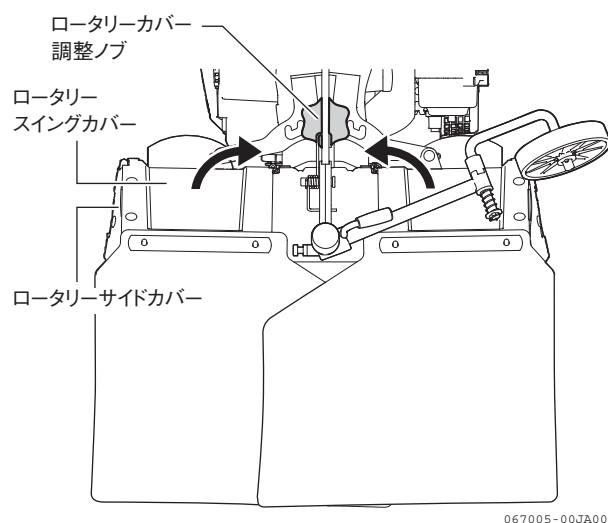


図 3-8

2. 左右のロータリースイングカバーをそれぞれ希望の角度に調節します。調節後は、ロータリーカバー調節ノブを締め込みます。

■ ロータリーサイドカバーを開閉するとき

1. ロータリーサイドカバーを手で動かし開きます。(図 3-9)

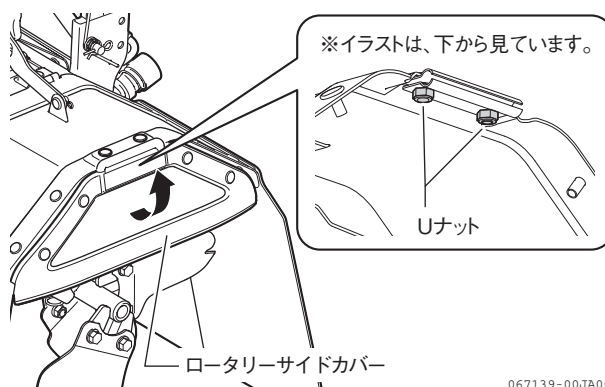


図 3-9 ロータリーサイドカバー

2. ロータリーサイドカバーの開閉は作業に合わせて調節します。ロータリーサイドカバーの開閉操作が重いときや、保持力が弱いときは、ロータリーサイドカバーのUナット (M6) の締め具合で調節します。

タイヤ取付幅の変更のしかた<UV仕様>

タイヤ取付幅は作業に合わせて、2段階にセットできます。(図 3-10)

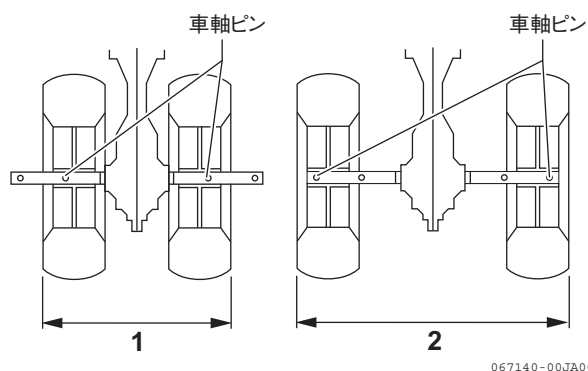


図 3-10 タイヤ取付幅変更

<標準タイヤ仕様>

- 1 : 310 mm
- 2 : 450 mm

<大径タイヤ仕様>

- 1 : 320 mm
- 2 : 460 mm

作業について

⚠ 警 告

- ロータリーの下にもぐったり、足を入れないでください。ロータリーが動いたときに傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ハウス内で作業をするときは、排ガスが充満しないように、十分に換気を行ってください。
- 作業時以外は、ロータリーの回転を止めてください。特に、作業中に旋回や後進をするときは、必ずロータリーの回転が止まっていることを確認してください。
- マフラーに付着した枯れ草やわらはを取り除いてください。火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注 意

- 地面が固かったり、石をかんだり、ロータリーを急に地面に降ろすと、回転する爪の勢いでミニ耕うん機が思わぬ方向に飛び出すことがあります（ダッシュ現象）。常に主クラッチを「切」位置にできる姿勢で作業をしてください。
- 後進するときは低速で移動し、転倒しないように足元に十分注意してください。後方に障害物がないことを確認して、障害物とミニ耕うん機の間にはさまれないようにしてください。
- 爪軸に草や土などが多く巻き付くと、旋回レバーを「旋回」位置にしても、ロータリーの回転が止まらない場合があります。その場合は、エンジンを停止し、手袋を着用して、草や土などを爪軸から取り除いてください。

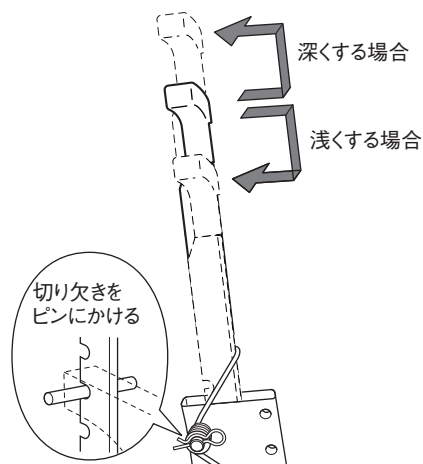
耕うん深さの調節のしかた

耕うん深さの調節は、耕深調節棒を上下して行います。

1. ミニ耕うん機を停止させます。
2. 耕深調節棒を手前（ミニ耕うん機後方）に引きます。耕深調節棒からピンが外れます。
3. 希望の耕深位置になるように耕深調節棒を上下に調節します。

耕深調節棒を「上げる」…耕うん深さが深くなります。（図 3-11）

耕深調節棒を「下げる」…耕うん深さが浅くなります。（図 3-11）



065814-00JA00

図 3-11 耕深調節棒

【参考】

- 耕深調節棒がスムーズに上下しないときは、前後に動かしながら調節してください。
- 耕深調節棒の操作が重くなったときは、つぎの操作をしてください。
 - 1) エンジンを停止します。
 - 2) ロータリーカバー内の耕深調節棒部に詰まった泥や草などを取り除きます。
 - 3) 耕深調節棒に注油します。

【重要】

草地で作業すると、草が爪に巻き付き、耕うん深さが確保できなくなります。その場合は、エンジンを停止し、手袋を着用して草を取り除いてください。

ほ場での作業のしかた＜標準・Z・Z2仕様＞

耕うん作業

耕うん作業は、土の中に空気や肥料を取り込み、植物の根が張りやすい環境を作る大切な作業です。
ミニ耕うん機を使うことで、より深く耕うんでき、植物の生育しやすい環境を手軽に短時間で作ることができます。

【重要】

リヤシートが接地した状態で後進すると、リヤシートが爪に巻き込まれるおそれがあります。後進するときは、ハンドルを持ち上げてください。
リヤシートが巻き込まれたまま耕うん作業をしないでください。エンジンを停止し、巻き込まれたリヤシートを元の状態に戻してください。(図 3-12)

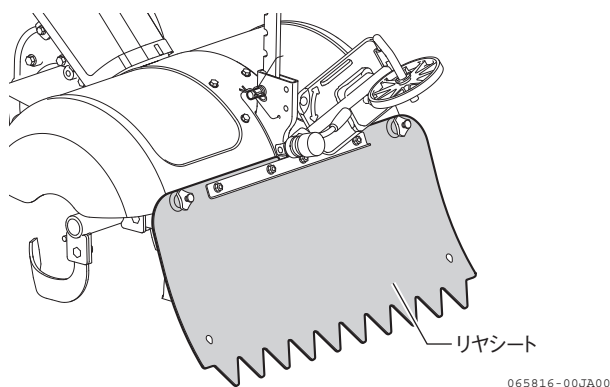


図 3-12 リヤシート

1. ワンタッチ切り替え尾輪を右上にセットします。(図 3-13)

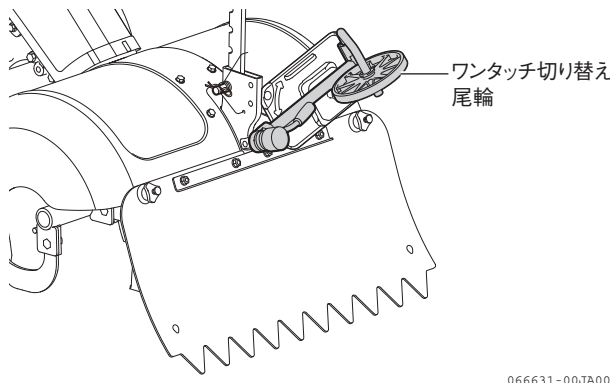


図 3-13 尾輪 (耕うん作業)

2. ミニ耕うん機を耕す場所に移動させ、変速レバーを「作業」位置にします。(図 3-14、図 3-15)

＜標準・Z仕様＞

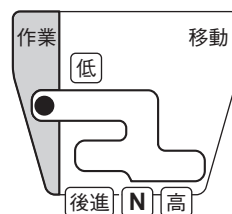


図 3-14 変速レバー (標準・Z仕様)

＜Z2仕様＞

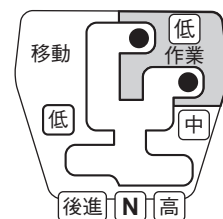


図 3-15 変速レバー (Z2仕様)

3. 耕深調節棒を上下させ、耕うん深さを調節します。

【参考】

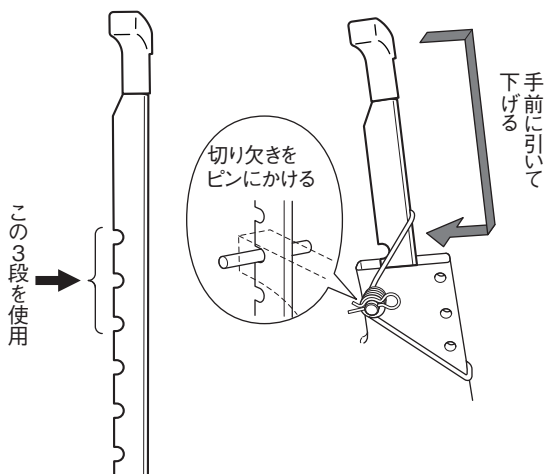
耕深調節棒の調節のしかたは、26 ページの「耕うん深さの調節のしかた」を参照してください。

4. 旋回レバーを「直進」位置にします。
5. アクセルレバーを「高」位置にします。
6. 主クラッチレバーを握ります。ミニ耕うん機が前進し、耕うん作業ができます。

【参考】

硬いほ場では、ミニ耕うん機が前に飛び出す（ダッシュ現象）ことがあります。このような場合は、耕深調節棒を下げて作業をしてください。（図 3-16）

耕深調節棒は「下」に



065820-00JA00

図 3-16 耕深調節棒（下）

うね立て作業

うね立て作業の目的は、耕うんした土壌を盛り上げて畑にうねを作ることにより、通気性・排水性を高めることです。

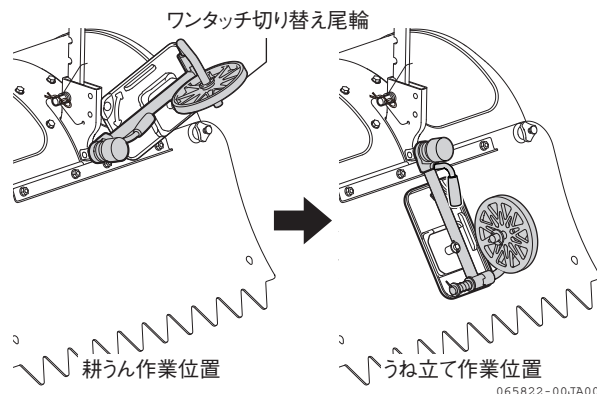
ミニ耕うん機を使うことで、うね立てを短時間できれに行うことができます。

【参考】

- うね立て作業前に十分に耕うん作業をして、表面を平らにしてください。
- きれいなうねを立てるために、うね立て作業前にしっかりと均一な深さで耕うん作業をしてください。
- 耕うん深さを均一にしないと、安定したうねが作れません。

「ワンタッチ切り替え尾輪」と「リヤシート」「溝底幅切り替えプレート」を使用して、うね立て作業ができます。必ず、耕うん後のほ場で作業をしてください。

1. 尾輪を「耕うん」位置から「うね立て作業」位置にします。（図 3-17）



065822-00JA00

図 3-17 耕うん・うね立て

2. 変速レバーを「作業」位置にします。
3. 耕深調節棒を上下させ、溝深さを調節します。
4. アクセルレバーを「高」位置にします。
5. 主クラッチレバーを握って前進します。
6. ミニ耕うん機が前進すると、溝ができます。
7. 往復すると、うねが立ちます。（図 3-18）

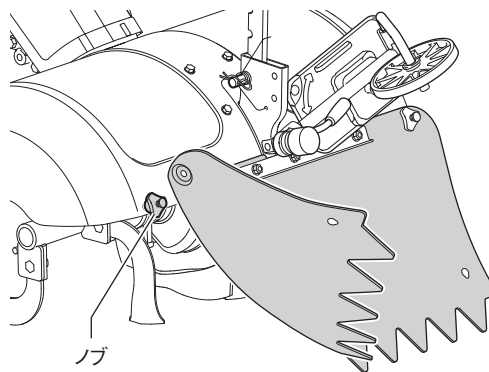


067835-00JA00

図 3-18

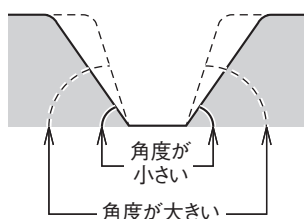
【参考】

- リヤシートを使用して、用途に合わせて、うねの角度(大きい・小さい)を調節することができます。ロータリーカバーの端のノブからリヤシートを外すと、角度の立ったうねができます。（図 3-19、図 3-20）
外したノブはなくさないように保管してください。



065826-00JA00

図 3-19 うね立て（リヤシート）



067588-00JA00

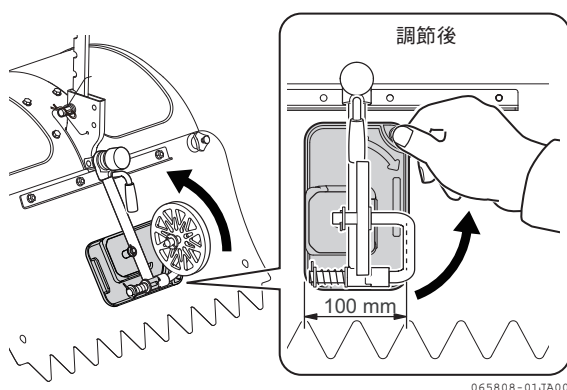
図 3-20

- 溝底幅切り替えプレートを使用して、用途に合わせて溝底幅（広い・狭い）を調節することができます。

溝底幅切り替えプレートの丸い凹みを握り、前進方向に少し押しながら切り替えます。

ほ場を有効に使う場合：

溝底幅切り替えプレートを縦にします。溝底幅が狭くなります。（図 3-21、図 3-23）

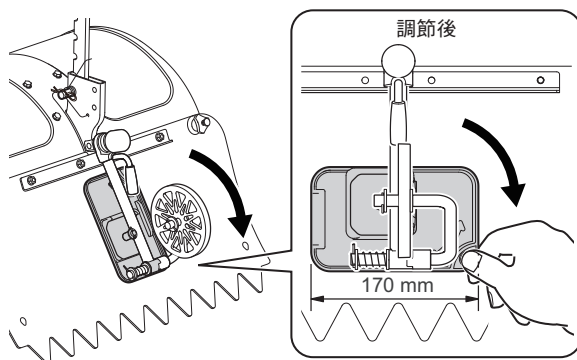


065808-01JA00

図 3-21 うね立て（溝底幅切り替えプレート縦）

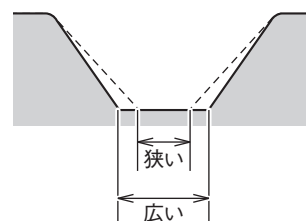
足元に余裕が欲しい場合：

溝底幅切り替えプレートを横にします。溝底幅が広がります。（図 3-22、図 3-23）



065808-02JA00

図 3-22 うね立て（溝底幅切り替えプレート横）



067589-00JA00

図 3-23

ほ場での作業のしかた＜UVT仕様＞

耕うん作業は、土の中に空気や肥料を取り込み、植物の根が張りやすい環境を作る大切な作業です。

ミニ耕うん機を使うことで、より深く耕うんでき、植物の生育しやすい環境を手軽に短時間で作ることができます。

作業に合わせた爪の組み合わせかた

⚠ 注意

- 爪を着脱するときは、エンジンを停止し、手袋を着用して行ってください。
- 爪の向きと、刃面の方向を間違えないように注意してください。

■ 爪軸の向きの振り替え方法

1. ロータリースイングカバーを開きます。
2. 安全ピンを抜き、爪軸と爪軸端のドロ詰まり防止栓を外します。(図 3-24、図 3-25)
3. 爪軸を振り替え、本機の耕うん軸に取り付けます。

正転作業⇄逆転作業の場合：

爪軸を内向きから外向き、または外向きから内向きに振り替え、本機の耕うん軸に取り付けます。

(図 3-24)

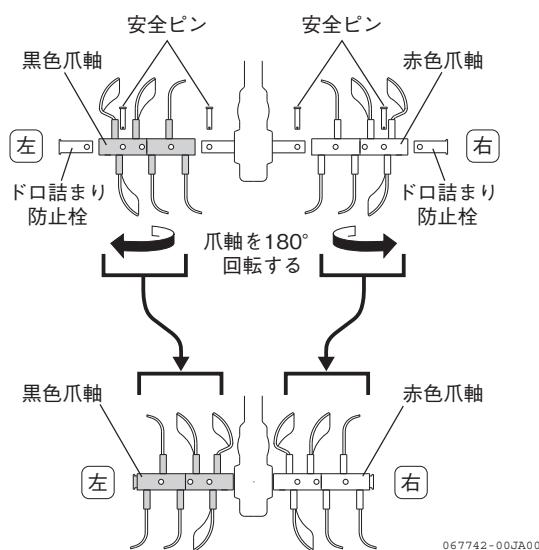


図 3-24

正転作業・内盛り作業⇄外盛り作業の場合：

左右の爪軸を振り替え、本機の耕うん軸に取り付けます。(図 3-25)

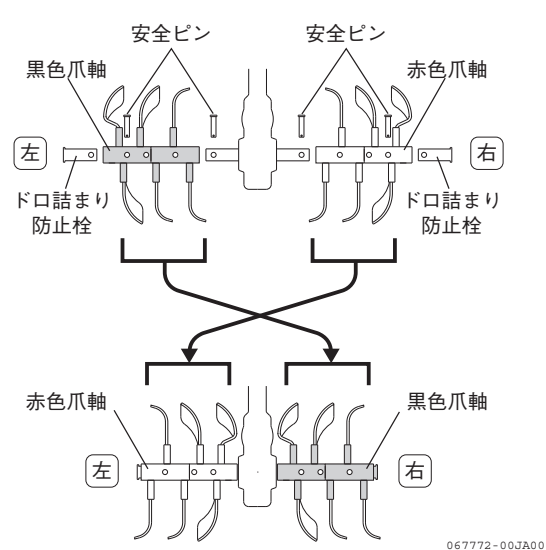


図 3-25

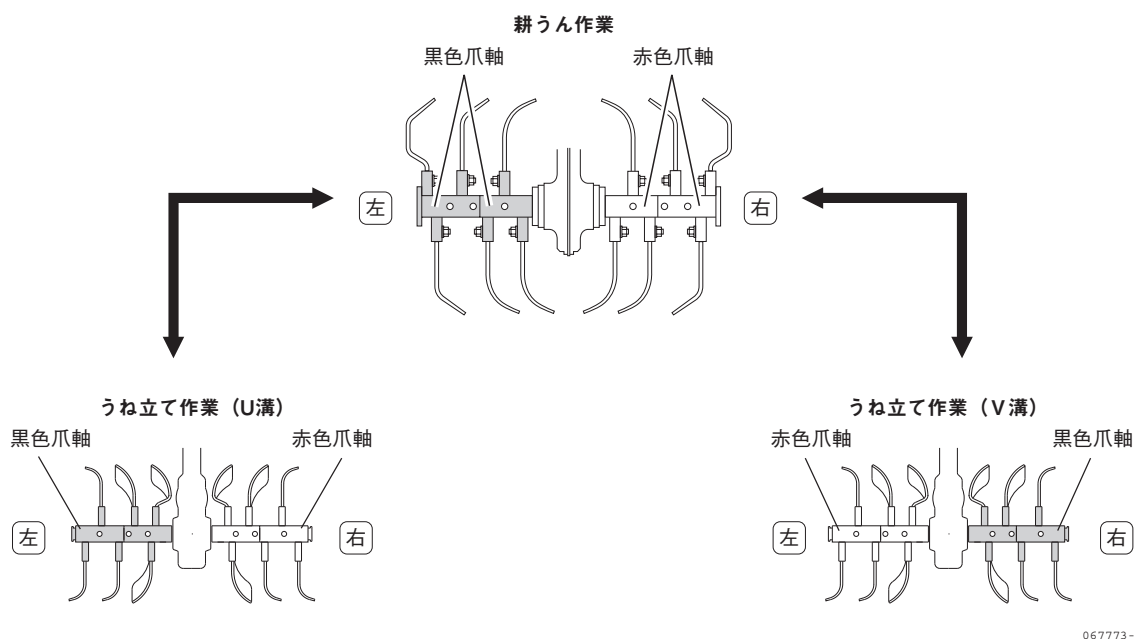


図 3-26

4. ドロ詰まり防止栓を爪軸端に取り付けます。

■ 爪軸を狭幅にする方法

1. ロータリースイングカバーを開きます。
2. 安全ピンを抜き、外側の爪軸を外します。

正転作業による作間中耕作業の場合：

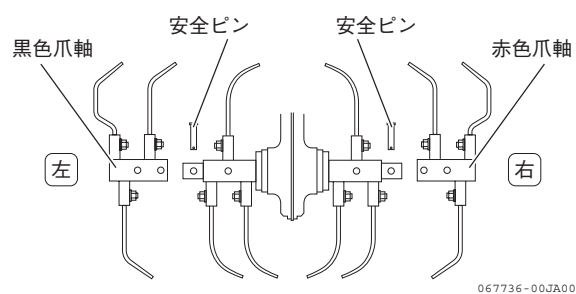


図 3-27

逆転作業による作間中耕作業の場合：

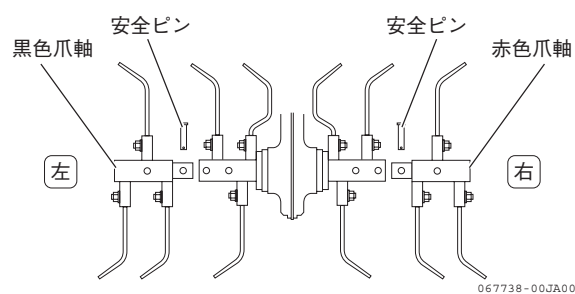


図 3-29

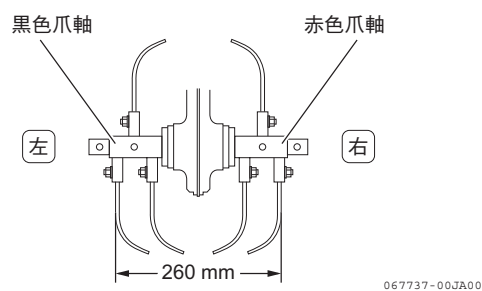


図 3-28

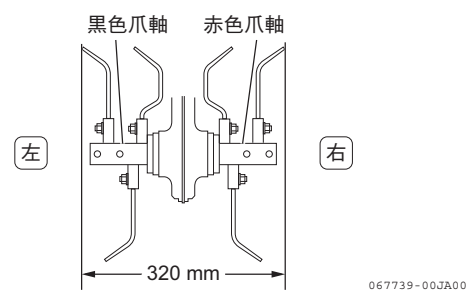


図 3-30

3. ロータリースイングカバーを閉じます。

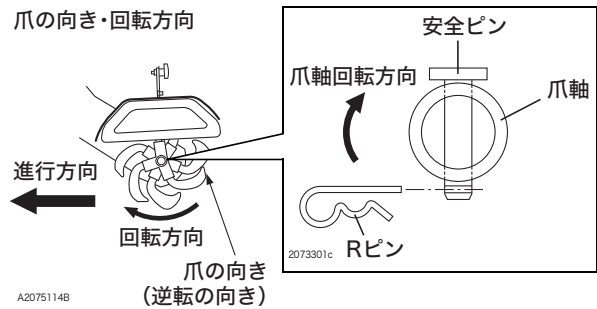
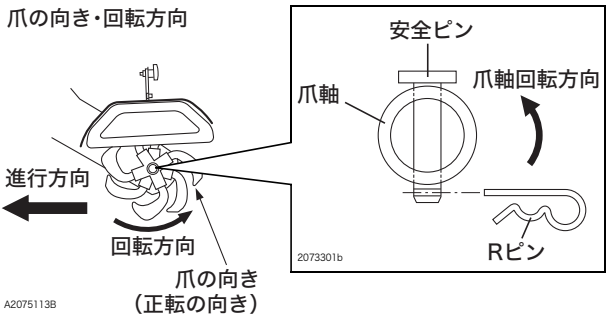
■ ピンの差し込み方法(向き)

[重要]

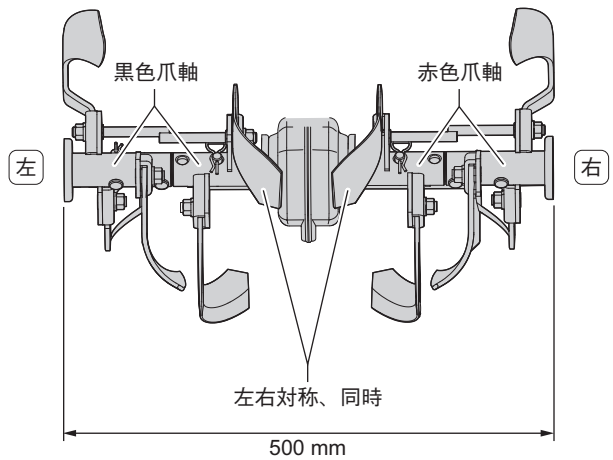
- 爪軸のピンは安全ピンを使用しています。交換するときは、必ず指定の安全ピンを使用してください。指定以外の安全ピンを使用すると、故障の原因になります。

安全ピン 10×40	コード:1A2680-43600
------------	------------------

- 爪軸を取り付けるときは、安全ピンを差し込み、爪軸の回転方向に合わせて R ピンを図 3-31、図 3-32 の方向から差し込みます。
差し込み方向を反対にすると、R ピンが作業中に抜けるおそれがあります。



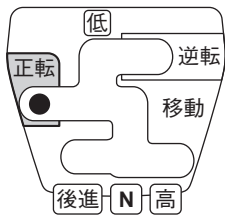
耕うん作業



067265-00JA00

図 3-33

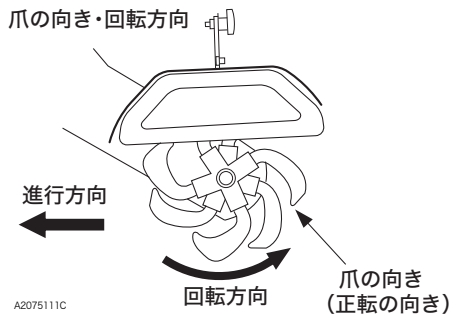
1. ロータリースイングカバーを閉じます。
2. ワンタッチ切り替え尾輪を右上にセットします。
3. 変速レバーを「正転」位置にします。(図 3-34)



067740-00JA00

図 3-34

4. 耕深調節棒を上下させ、耕うん深さを調節します。
5. 旋回レバーを「直進」位置にします。
6. アクセルレバーを「高」位置にします。
7. 主クラッチレバーを握ります。ミニ耕うん機が前進し、耕うん作業ができます。



A2075111C

図 3-35

うね立て作業

⚠ 注意

うね立て作業は15 cm以上の深さを十分に耕うんしたほ場で行ってください。ダッシュ現象により、思わぬけがをするおそれがあります。

うね立て作業の目的は、耕うんした土壌を盛り上げて畑にうねを作ることにより、通気性・排水性を高めることです。

ミニ耕うん機を使うことで、うね立てを短時間できれに行うことができます。

【参考】

- うね立て作業前に十分に耕うん作業をして、表面を平らにしてください。
- きれいなうねを立てるために、うね立て作業前にしっかりと均一な深さで耕うん作業をしてください。
- 耕うん深さを均一にしないと、安定したうねが作れません。

■ U溝

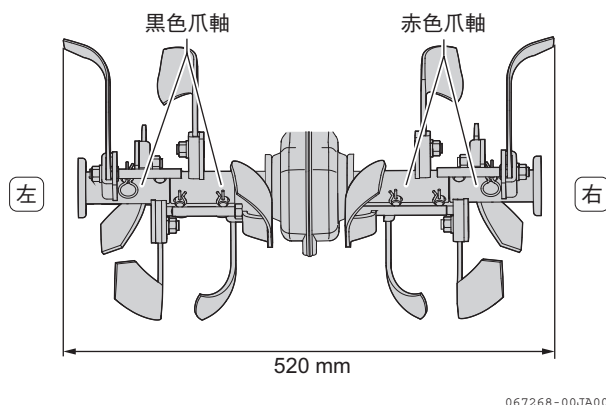


図 3-36

1. ロータリースイングカバーを開きます。
2. UVリヤシート（中央）を両側のリヤシートの内位置にします。（図 3-37）

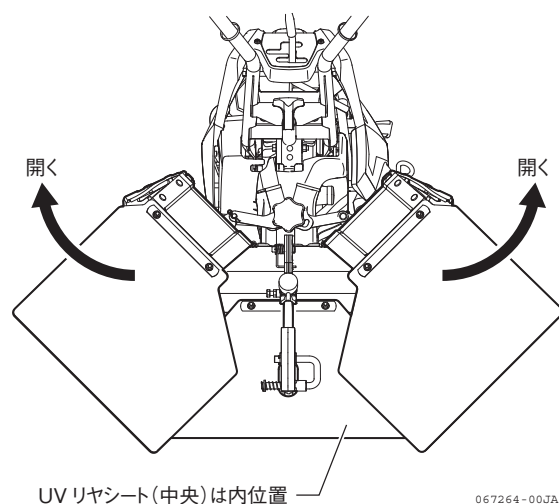


図 3-37

3. 尾輪を「耕うん」位置から「うね立て作業」位置にします。
4. 変速レバーを「逆転」位置にします。（図 3-38）

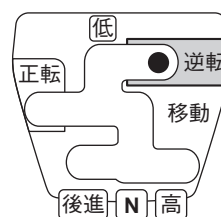


図 3-38

5. 耕深調節棒を上下させ、溝深さを調節します。
6. アクセルレバーを「高」位置にします。
7. 主クラッチレバーを握って前進します。

爪の向き・回転方向

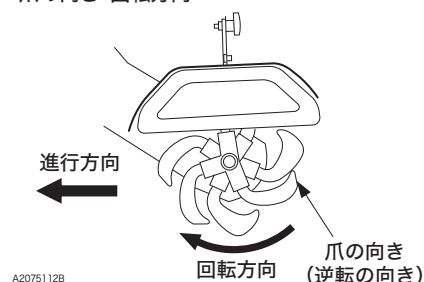


図 3-39

8. ミニ耕うん機が前進すると、溝ができます。（図 3-40）



図 3-40

■ V溝

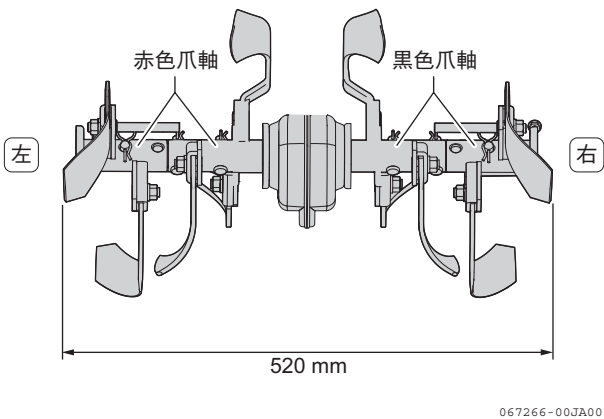


図 3-41

1. ロータリースイングカバーを1段開きます。
2. UVリヤシート（中央）を両側のリヤシートの内位置にします。（図 3-37）
3. 尾輪を「耕うん」位置から「うね立て作業」位置にします。
4. 変速レバーを「正転」位置にします。
5. 耕深調節棒を上下させ、溝深さを調節します。
6. アクセルレバーを「高」位置にします。
7. 主クラッチレバーを握って前進します。

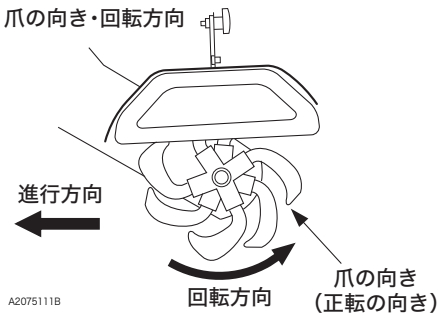


図 3-42

8. ミニ耕うん機が前進すると、溝ができます。（図 3-43）

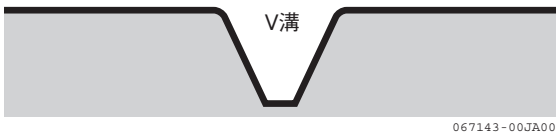


図 3-43

ほ場での作業のしかた＜UVH仕様＞

耕うん作業は、土の中に空気や肥料を取り込み、植物の根が張りやすい環境を作る大切な作業です。
ミニ耕うん機を使うことで、より深く耕うんでき、植物の生育しやすい環境を手軽に短時間で作ることができます。

耕うん作業

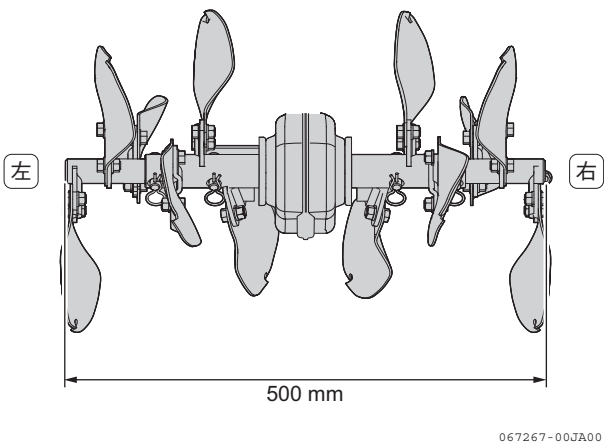


図 3-44

1. ロータリースイングカバーを閉じます。
2. ワンタッチ切り替え尾輪を「耕うん」位置から「うね立て作業」位置にします。
3. 変速レバーを「正転」位置にします。
4. 耕深調節棒を上下させ、耕うん深さを調節します。
5. 旋回レバーを「直進」位置にします。
6. アクセルレバーを「高」位置にします。
7. 主クラッチレバーを握ります。ミニ耕うん機が前進し、耕うん作業ができます。

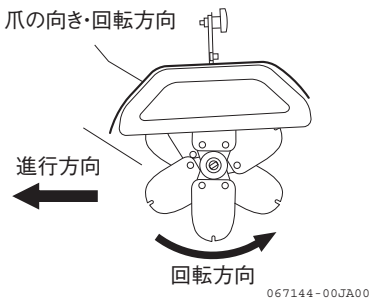


図 3-45

うね立て作業

⚠ 注意

作業前に耕うんを十分に行い、耕うん深さ 15 cm 以上のほ場で作業してください。
守らないと、機械が飛び出し(ダッシュ現象)、思わぬけがをするおそれがあります。

うね立て作業の目的は、耕うんした土壌を盛り上げて畑にうねを作ることにより、通気性・排水性を高めることです。

ミニ耕うん機を使うことで、うね立てを短時間できれいに行うことができます。

【参考】

- うね立て作業前に十分に耕うん作業をして、表面を平らにしてください。
- きれいなうねを立てるために、うね立て作業前にしっかりと均一な深さで耕うん作業をしてください。
- 耕うん深さを均一にしないと、安定したうねが作れません。

■ U溝

1. ロータリースイングカバーを開きます。
2. UVリヤシート（中央）を両側のリヤシートの内位置にします。
3. 尾輪を「耕うん」位置から「うね立て作業」位置にします。
4. 変速レバーを「逆転」位置にします。
5. 耕深調節棒を上から3段の位置にします。（図 3-46）

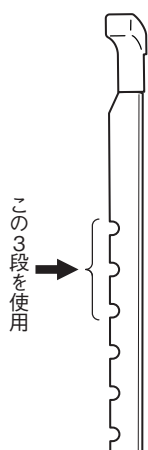


図 3-46

067741-00JA00

6. アクセルレバーを「高」位置にします。
7. 主クラッチレバーを握って前進します。

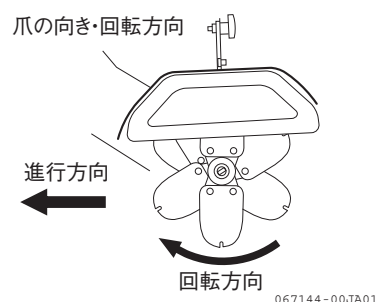


図 3-47

067144-00JA01

8. ミニ耕うん機が前進すると、溝ができます。（図 3-48）

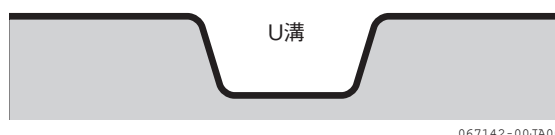


図 3-48

067142-00JA00

■ V溝

1. ロータリースイングカバーを1段開きます。
2. UVリヤシート（中央）を両側のリヤシートの内位置にします。
3. 尾輪を右上にセットします。
4. 変速レバーを「正転」位置にします。
5. 耕深調節棒を上から3段の位置にします。
6. アクセルレバーを「高」位置にします。
7. 主クラッチレバーを握って前進します。

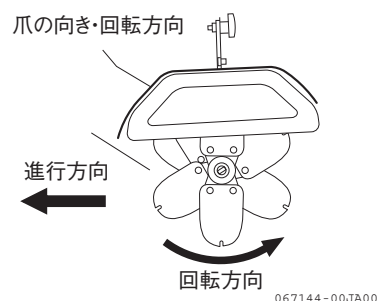


図 3-49

067144-00JA00

8. ミニ耕うん機が前進すると、溝ができます。
(図 3-50)



図 3-50

4章 お手入れのしかた

作業後の手入れについて

作業後の手入れのしかた

⚠ 注 意

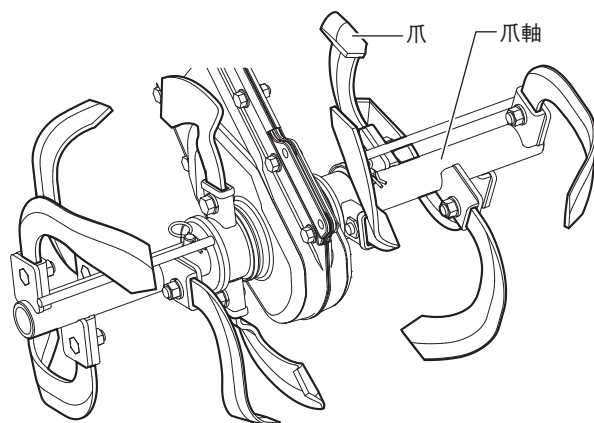
爪の手入れ・洗浄は、必ずエンジンを停止し、手袋を着用して行ってください。守らないと、けがをするおそれがあります。

※ イラストは、YK650MR, Zをモデルにしています。

作業後はその日のうちに水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各回転・摺動部に適量注油してください。

爪や爪軸、ロータリーカバー内に付着した土は、きれいに洗い取ってください。

また、爪軸に草などが巻き付いていたら、取り除いてください。(図 4-1)

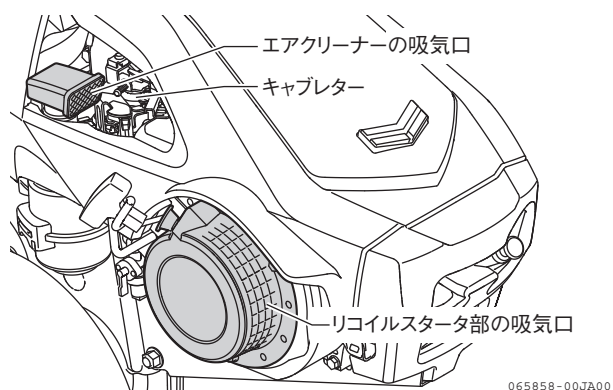


068989-00JA01

図 4-1 爪と爪軸

【重要】

- 水洗いをするときは、エアクリーナーの吸気口やキャブレターに水が入らないようにしてください。(図 4-2)
- リコイルスタータ部の吸気口に付いたゴミは、きれいに掃除してください。(図 4-2)
- リコイルスタータ部の吸気口は、エンジンの冷却風を吸い込むところです。きれいに掃除しないと、エンジンの過熱や出力低下の原因になります。

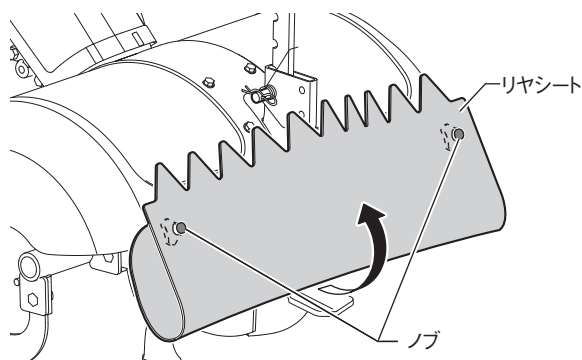


065858-00JA00

図 4-2 お手入れのしかた

【参考】

爪の手入れや洗浄をするときは、ロータリーカバーの両サイドのノブにリヤシートの穴を引っかけると、爪の手入れがしやすくなります。(図 4-3)



065859-00JA00

図 4-3 お手入れのしかた

各部の注油箇所

⚠ 注 意

回転部へ注油するときは、必ずエンジンを停止して行ってください。守らないと、けがをするおそれがあります。

※ イラストは、YK650MR, Zをモデルにしています。

< 凡例 >

注油位置：



■ テンションアーム支点

ベルトカバー（白）を外します。

（ねじ：2本、ツメ：4カ所）（図 4-4）

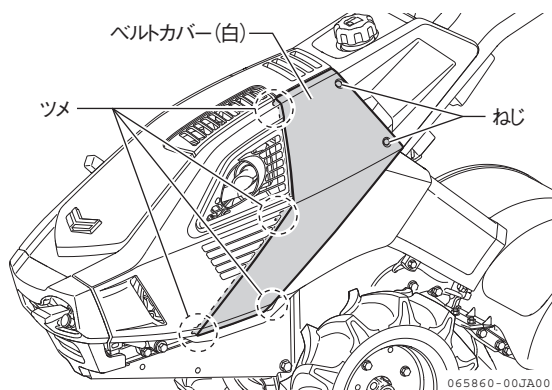


図 4-4 ベルトカバー（白）

注油箇所

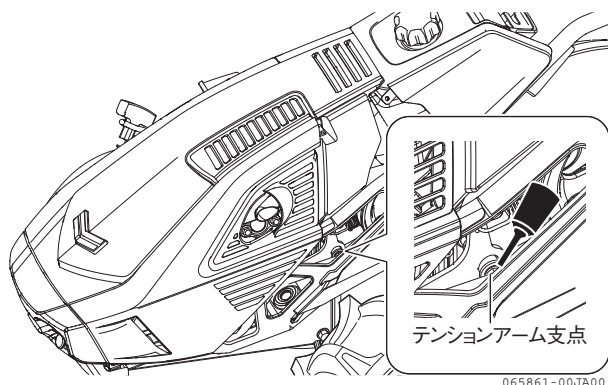


図 4-5 テンションアーム支点

【重要】

ベルトに油がかからないように注意してください。

■ 変速レバー支点

注油箇所

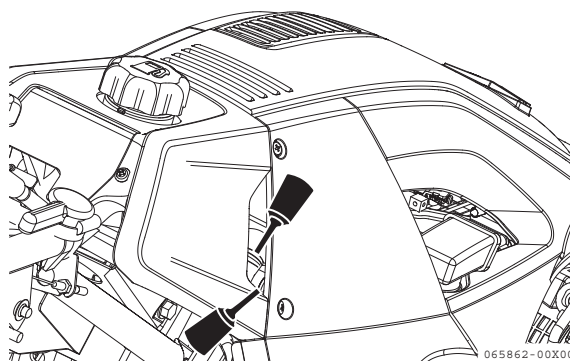


図 4-6 変速レバー支点

■ 主クラッチレバー・旋回レバー支点

注油箇所

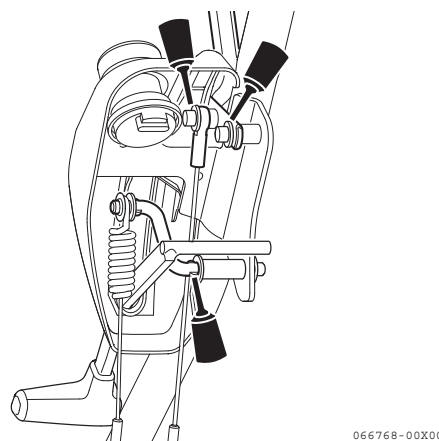


図 4-7 主クラッチレバー・旋回レバー支点

■ 主クラッチレバー・主クラッチワイヤ支点

注油箇所

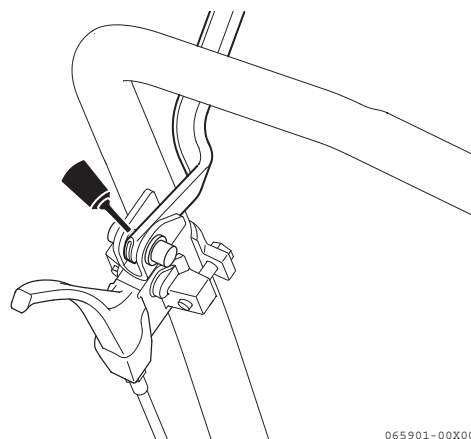


図 4-8 主クラッチレバー・主クラッチワイヤ支点

■ ワンタッチ切り替え尾輪部

注油箇所

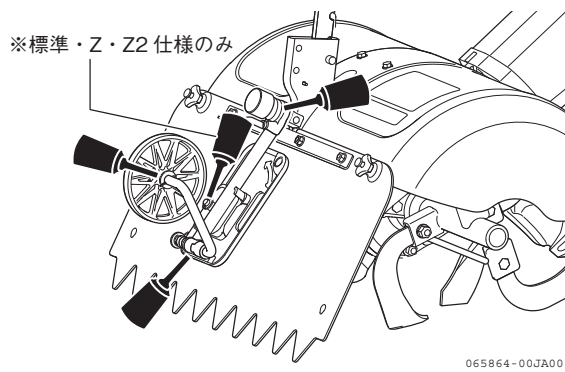


図 4-9 ワンタッチ切り替え尾輪部

■ ハンドル支点

注油箇所

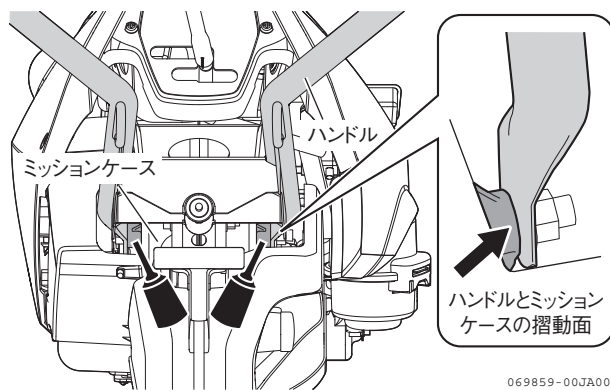


図 4-10 ハンドル支点

点検・整備のしかた

点検・整備の前には、同梱の「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」をよくお読みください。

⚠ 警 告

- 作業者および補助者は作業に適した服装をしてください。思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備時は、ミニ耕うん機を平たんで安定した場所に駐車し、エンジンを停止してください。また、手袋を着用してください。
- 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。エンジンの排出ガスで中毒を起こすおそれがあります。

⚠ 注 意

- 機械の摩耗などで角部が鋭利になっている場合、人が触れてけがをするおそれがあります。始業前に確認してください。また、鋭利部を見つけたらお買い上げいただいた特販店またはJAに修理をご依頼ください。
- ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2年ごとに交換してください。守らないと、燃料が漏れて火災が起こり、けがをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、高温部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- カバーを外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

【重要】

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた特販店またはJAにご相談ください。

定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行うと、農繁期にミニ耕うん機の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。ミニ耕うん機の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに整備工場定期点検整備を受け、各部の保安を確認してください。特に燃料パイプやゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常にミニ耕うん機を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

定期点検一覧表

表 4-1 定期点検一覧表

点検・調節箇所		点検・交換時期	内容	参照 ページ
エンジンオイル		作業前に点検 1回目:25時間目に交換 2回目以降:50時間ごとに交換	規定量:0.5 L エンジンオイル(ガソリンエンジン用)SE級以上 ・ 夏季(20℃以上)…SAE30番 ・ 春・秋季……………SAE20番 ・ 冬季(10℃以下)…SAE10W-30番	43
走行ミッションオイル		1回目:50時間目に交換 2回目以降:100時間ごとに交換	規定量: ・ 標準タイヤ仕様 4.4 L(Z・Z2仕様) 4.5 L(標準・UV仕様) ・ 大径タイヤ仕様 4.3 L(Z・Z2仕様) 4.4 L(標準・UV仕様) ヤンマーミッションオイル90番	45
エアクリーナーエレメント		作業前に点検	灯油で洗浄、または交換	46
主クラッチレバー		作業前に点検	指でベルト中央部を押したときのたわみ量:約10 mm	47
旋回レバー		作業前に点検	デフ、デフロックがすぐに切り替わることを確認	47
耕うん爪	ナタ爪・揚土爪	作業前に点検	耕うん爪の摩耗率が約60 %以下になったときに交換	49
	ハイブリッド爪	作業前に点検	ハイブリッド爪先端の切り欠きがなくなったときに交換	49
タイヤ		作業前に点検	空気圧:118 kPa(1.2 kg/cm ²)	54
点火プラグ		50時間ごとに点検	火花ギャップ(電極すき間):0.7 mm	52
エンジン取付ボルト 耕うん爪取付ボルト		作業前に点検	増締め	47
燃料パイプ、電気配線		作業前に点検	燃料パイプとその結合部の点検、 電気配線の被覆はがれや傷の点検	54

燃料の点検・補給・排出のしかた

⚠ 危険

- 燃料補給時は火気厳禁です。
燃料は引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。
 - ・ エンジンを必ず止めて燃料補給をしてください。
 - ・ タバコなどの火気を近づけないでください。
 - ・ こぼれた燃料は必ずふき取ってください。
- エンジン回転中やマフラーが熱い間は給油をしないでください。火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 規定量を守ってください。入れすぎると燃料キャップからガソリンがあふれ、こぼれたガソリンに引火して火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料補給をする前に、機械などの金属部分に触れて、身体の静電気を放電してください。
静電気の放電による火花が気化したガソリンに引火して火災や爆発が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料は、燃料ストレーナーを通して補給してください。
ゴミなどが詰まり、燃料が漏れて火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。ヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。

【重要】

ガソリンは、絶対に河川や下水道などに流さないでください。環境汚染につながります。
ガソリンの処分は、特販店または JA へご相談ください。

燃料の点検・補給のしかた

1. ミニ耕うん機を水平な場所に置きます。
2. リコイルカバー側から燃料の残量を点検します。
(図 4-11)
3. 不足している場合は、燃料キャップを外し、燃料の油面が燃料ストレーナーに付いている赤印枠を超えないように補給します。この位置が規定量です。(図 4-11)

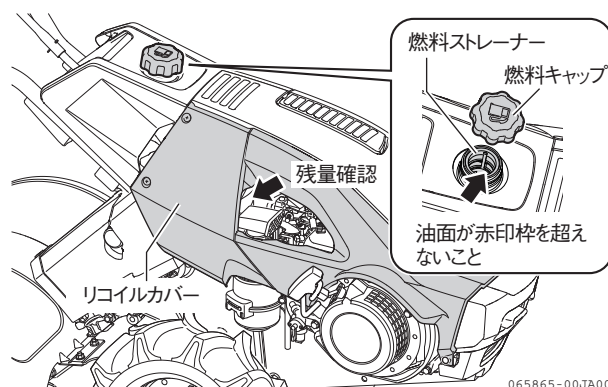


図 4-11 燃料の残量確認

【重要】

- 点検時に、燃料漏れのないことも確認してください。
- 自動車用無鉛ガソリン（レギュラーガソリン）を使用してください。
混合ガソリンや軽油・灯油、または粗悪なガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンの故障につながります。
- ガソリンは自然劣化します。ご購入後 1 カ月以上保管したガソリンは使用しないでください。
- 燃料を規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまで燃料を抜いてください。

燃料タンク内の燃料の抜きかた

1. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。
2. 燃料コシ器下部の四角部を工具 (10 mm) でゆるめて、燃料コシ器のカップを外します。

(図 4-12)

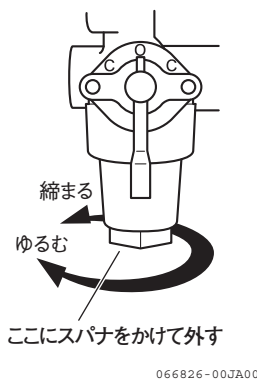


図 4-12 燃料コシ器 (カップ)

3. 燃料コシ器の下に容器を置き、燃料コックレバーを「O (開)」位置にします。燃料タンク内の燃料が抜けます。
4. 燃料が全部抜けきったら、燃料コックレバーを「C (閉)」位置にし、燃料コシ器にカップを取り付けます。

キャブレター内の燃料の抜きかた

1. ドレンホースの下に容器を置きます。
2. ワンタッチキャブドレンを引いて、キャブレター内の燃料を抜きます。(図 4-13)
3. 燃料が全部抜けきったら、ワンタッチキャブドレンを放します。

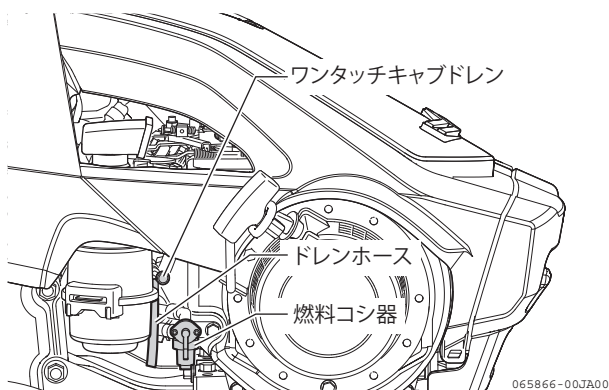


図 4-13 燃料の抜きかた

オイルの点検・交換のしかた

⚠ 注意

オイルの点検・交換・補給でこぼれたオイルは必ずふき取ってください。滑って転倒し、けがをすることがあります。

【重要】

オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。環境汚染につながります。廃油の処分は、特販店またはJAへご相談ください。

※イラストは、YK650MR, Zをモデルにしています。

エンジンオイル

表 4-2 エンジンオイルの規定量

規定量	0.5 L
-----	-------

エンジンオイルの点検・交換は、エンジンを水平な状態にしてから行ってください。(図 4-14)

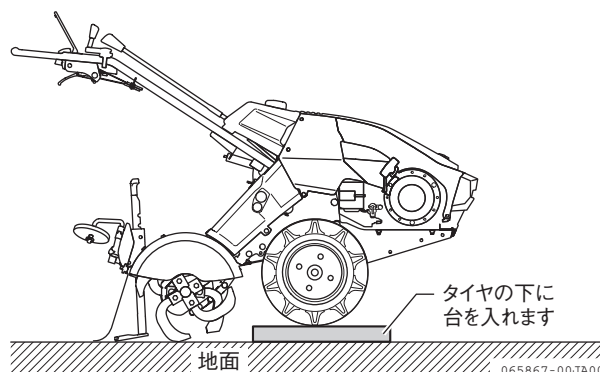


図 4-14 エンジン水平

【参考】

標準タイヤ仕様：高さ約5 cmの台を入れるとエンジンが水平になります。

大径タイヤ仕様：高さ約3 cmの台を入れるとエンジンが水平になります。

■ 点検のしかた

1. 給油口のふたを外して、先端の検油ゲージのエンジンオイルをきれいにふきます。(図 4-15)
2. 給油口のふたを給油口に差し込み、もう一度抜き出します。(図 4-15)

【重要】

エンジンオイルの量を確認するときは、給油口のふたをいっぱいまで差し込んでください。

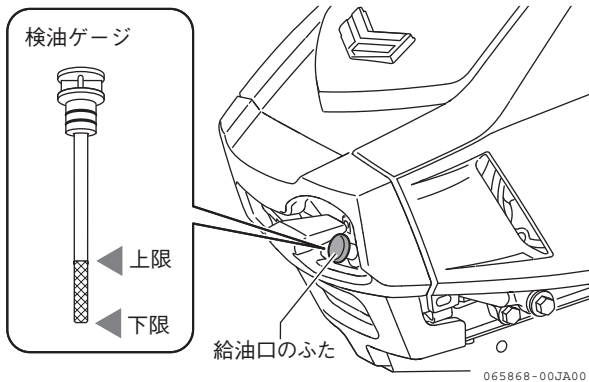


図 4-15 点検のしかた

3. エンジンオイルが検油ゲージの上限と下限の間にあることを確認します。
4. 点検後、給油口にふたを取り付けます。

【参考】

点検時、エンジンオイル漏れのないことも確認してください。

■ 補給のしかた

エンジンオイルが不足している場合は、油面が検油ゲージの上限の位置になるまで、給油口から補給します。

【重要】

- 補給するエンジンオイルは、必ず指定オイルを使用してください。

表 4-3 エンジンオイルの等級

エンジンオイル(ガソリンエンジン用)SE級以上
・ 夏季(20℃以上)…SAE30番
・ 春・秋季……………SAE20番
・ 冬季(10℃以下)…SAE10W-30番

- エンジンオイルを規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまでエンジンオイルを抜いてください。

■ 交換のしかた

1. エンジン側面にあるドレンプラグの下に、古いエンジンオイルを受ける容器を置きます。
2. ドレンプラグを工具(12 mm)で外します。古いエンジンオイルが流れ出てきます。(図 4-16)

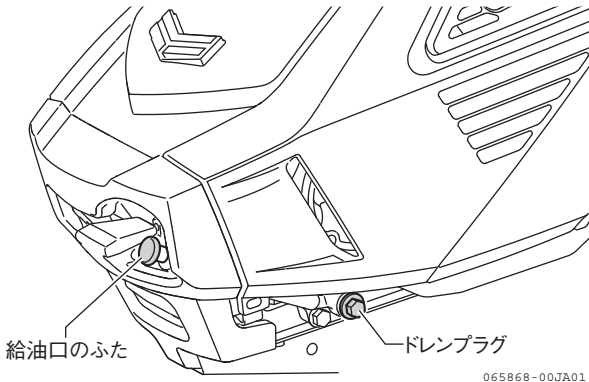


図 4-16 交換のしかた

【参考】

給油口のふたを外すと、エンジンオイルが抜けやすくなります。

3. 古いエンジンオイルが抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
4. 給油口からエンジンオイルを規定量給油します。

【参考】

エンジンオイルが完全に抜けきらず、規定量給油できない場合があります。こぼれないように給油してください。

5. 給油口のふたを元通りに取り付けます。

走行ミッションオイル

表 4-4 ミッションオイルの規定量

規定量	標準タイヤ仕様	Z・Z2仕様	4.4 L
		標準・UV仕様	4.5 L
	大径タイヤ仕様	Z・Z2仕様	4.3 L
		標準・UV仕様	4.4 L

■ 点検のしかた

1. タイヤと爪を接地させます。
2. 検油窓の赤い丸印上にミッションオイルの油面があることを確認します。(図 4-17)

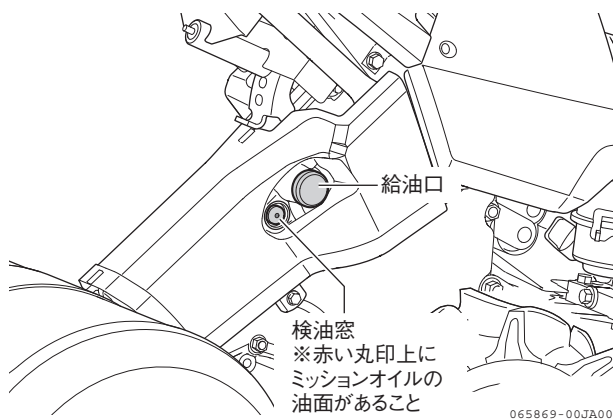


図 4-17 点検のしかた

【参考】

- 点検時にオイル漏れのないことも確認してください。
- ミッションオイル点検時には、タイヤの下に台を入れる必要はありません。

■ 補給のしかた

ミッションオイルが不足している場合は、給油口から、検油窓の赤い丸印の上にミッションオイルの油面がくるまで補給します。

表 4-5 ミッションオイルの等級

ヤンマーミッションオイル90番

【重要】

ミッションオイルを規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまでミッションオイルを抜いてください。

■ 交換のしかた

1. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。
2. ハンドルを持ち上げて、エンジン側を接地させます。(図 4-18)

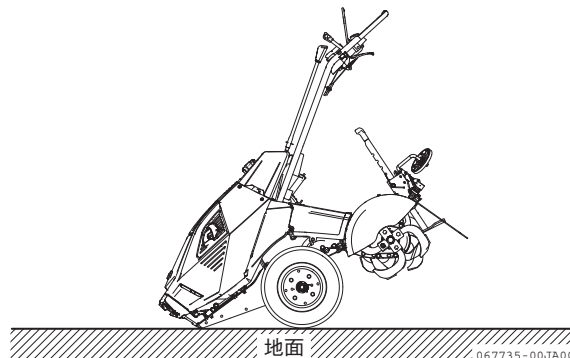


図 4-18

3. 走行ミッションケースの下部にあるドレンプラグの下に、古いミッションオイルを受ける容器を置きます。
4. ドレンプラグを工具 (12 mm) で外します。古いミッションオイルが流れ出てきます。(図 4-19)

【参考】

- 給油口のふたを外すと、ミッションオイルが抜けやすくなります。
- 走行ミッションオイルが温かいうちに抜くと、容易にミッションオイルを抜くことができます。

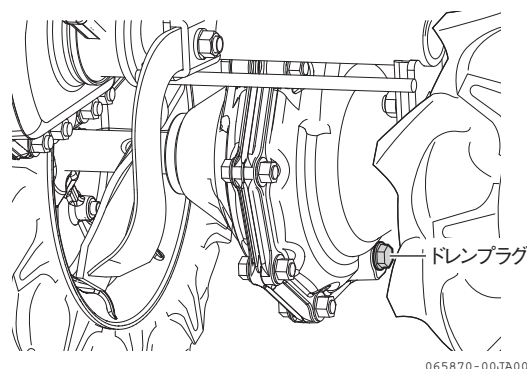


図 4-19 交換のしかた (ドレンプラグ)

5. 古いミッションオイルが抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
6. ハンドルを下げてミニ耕うん機のタイヤと爪を接地させて、給油口からミッションオイルを規定量給油します。
7. 給油口のふたを元通りに取り付けます。

エアクリーナーの洗浄のしかた

⚠ 警告

エアクリーナーエレメントの掃除は運転前に行ってください。運転中、および運転直後は掃除をしないでください。パッチン錠などが高温になって、ヤケドをするおそれがあります。

エアクリーナーを汚れたままで使用すると、エンジンの出力低下や、故障の原因になります。つぎの要領で、エアクリーナーを定期的に洗浄してください。

1. オイルだまりを固定している、パッチン錠を解除して、オイルだまりを外します。(図 4-20)
2. エレメントのスポンジ部を外し、灯油で洗って乾燥させます。
3. スポンジ部はエンジンオイルに浸し、硬くしぼってから取り付けます。

【重要】

エレメントの外装部品は、灯油で洗浄しないでください。

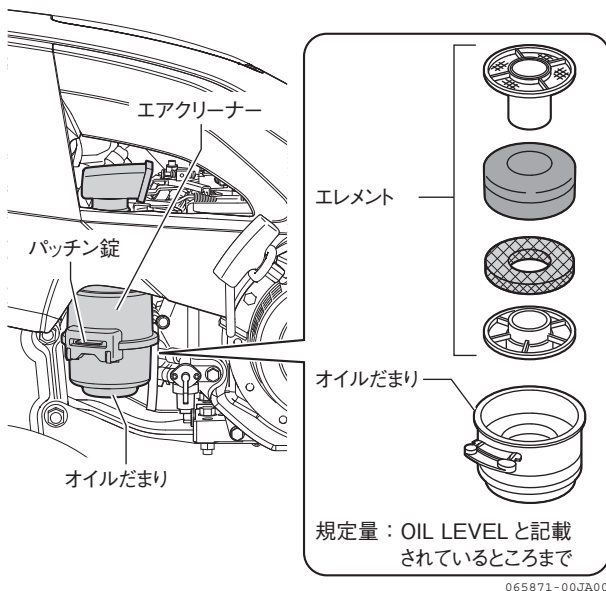


図 4-20 エアクリーナー

4. オイルだまりはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量入れます。(ガソリンエンジン用エンジンオイルSE級以上)
5. エレメントの上下方向を間違えないようにエアクリーナーへ入れ、オイルだまりを元通りに取り付けます。(図 4-20)

燃料コシ器エレメントの掃除のしかた

燃料コシ器エレメントは、燃料内の小さなゴミをこし取るものです。つぎの要領で、定期的に掃除してください。

1. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。(図 4-21)

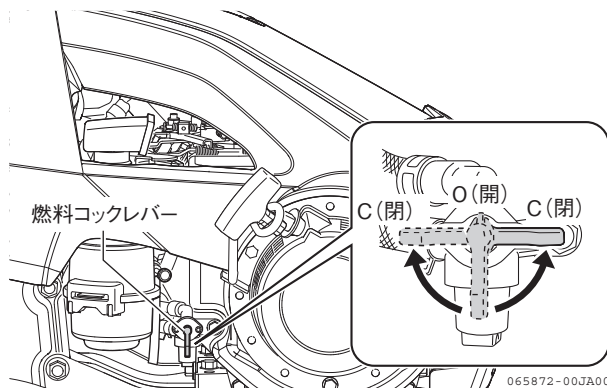


図 4-21 燃料コックレバー

2. 燃料コシ器下部の四角部を工具 (10 mm) でゆるめます。(図 4-22)
3. 燃料コシ器内の水やゴミを取り除き、フィルターネットの目詰まりなどを掃除します。
4. フィルターネット、パッキン、ストレーナーカップの順に元通りに取り付けます。(図 4-22)

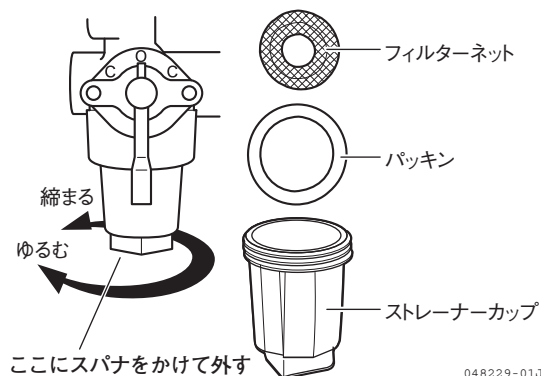


図 4-22 燃料コシ器エレメント

【参考】

フィルターネットは、燃料コシ器の上部に入っています。

主クラッチレバーの点検のしかた

※ イラストは、YK650MR, Zをモデルにしています。

1. ベルトカバー（白）を外します。
（ねじ：2本、ツメ：4カ所）（図 4-23）

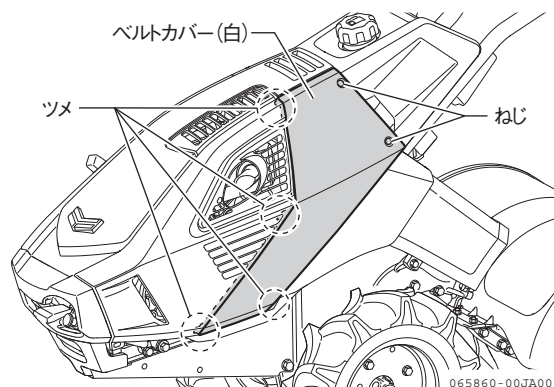


図 4-23 ベルトカバー（白）

2. 主クラッチレバーの「入」「切」が確実にできることを確認します。（11 ページの「主クラッチレバー」を参照）
3. 主クラッチレバー「切」位置、変速レバーを「中立」位置にして、主軸プリーが手で軽く回り、ベルトと主軸プリーの連れ回りがなくことを確認します。（図 4-24）

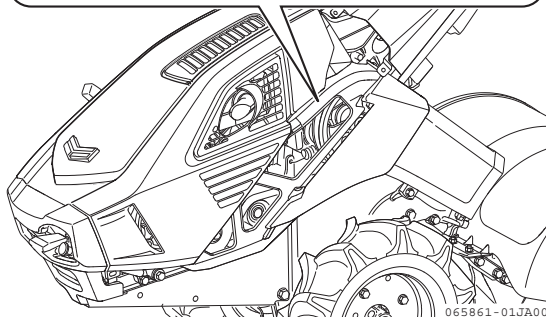
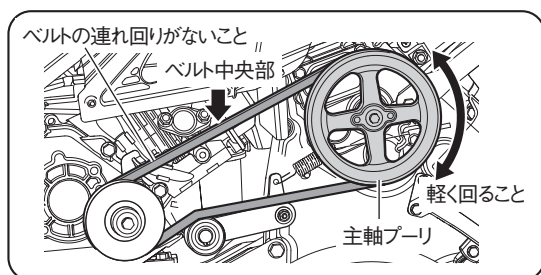


図 4-24 点検のしかた

主クラッチレバー「入」位置で、ベルト中央部を指で押したときのたわみが約 10 mm であるか確認します。（図 4-24）

旋回レバーの点検のしかた

旋回レバーを動かしたとき、タイヤのデフ/デフロックがすぐに切り替わることをハンドルを左右に振って確認します。

調整する必要がある場合、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。

増締めするところ

- エンジン取付ボルト（4カ所）（図 4-25）

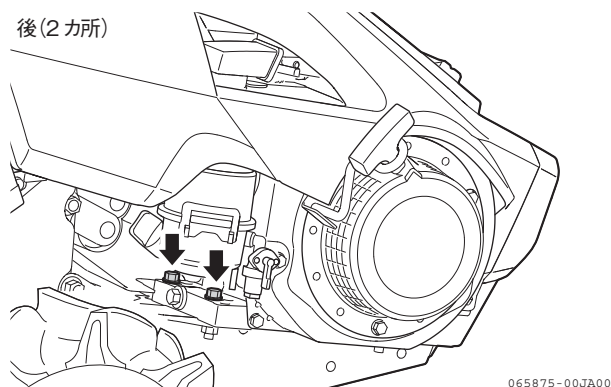
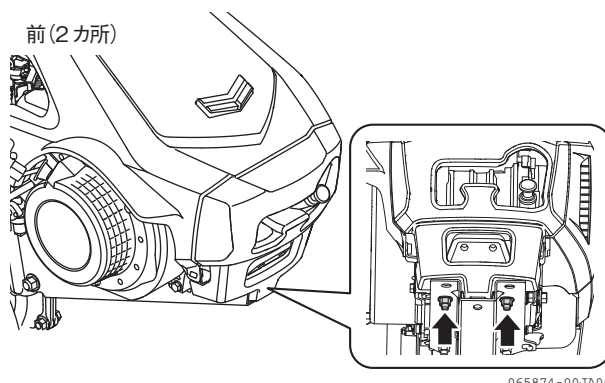


図 4-25 エンジンボルト

● 耕うん爪取付ボルト（各爪座）

（図 4-26、図 4-27、図 4-28）

ロータリーの爪、すべての取付ボルトと取付ナットを増締めします。

<ナタ爪・揚土爪>

YK450MR	8カ所
YK650MR	10カ所
YK650MR, L	
YK450MR, Z	6カ所
YK650MR, Z	
YK650MR, ZL	
YK650MR, Z2L	
YK650MR, UVT	8カ所
YK650MR, UVTL	

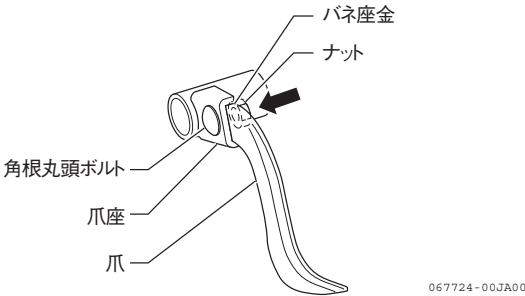


図 4-26

YK450MR	2カ所
YK650MR	
YK650MR, L	
YK450MR, Z	6カ所
YK650MR, Z	
YK650MR, ZL	
YK650MR, Z2L	
YK650MR, UVT	4カ所
YK650MR, UVTL	



図 4-27

<ハイブリッド爪>

YK650MR, UVH	24カ所
YK650MR, UVHL	

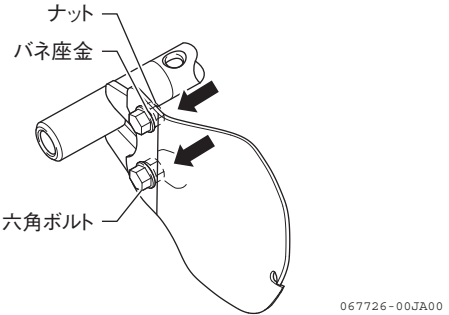


図 4-28

耕うん爪の点検・交換のしかた

⚠ 注意

爪の手入れや交換をするときは、厚手の手袋を着用してください。思わぬけがをするおそれがあります。

効率のよい作業をしていただくために、耕うん爪は、早めに交換してください。

<標準・UV仕様>

耕うん爪を交換するときは、抵抗棒も同時に交換してください。（図 4-29）

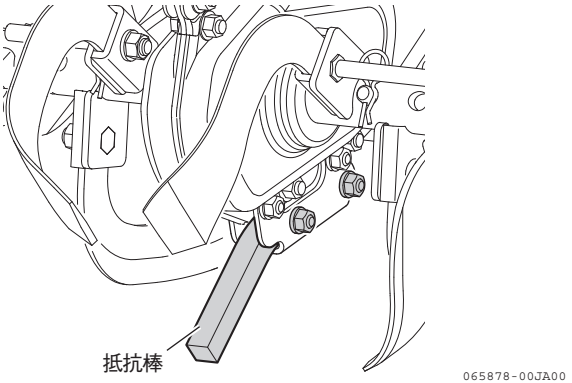


図 4-29 抵抗棒

耕うん爪の点検のしかた

■ 点検のしかた

- 耕うん爪の損傷・曲がり、および摩耗を点検します。
- 取付部のガタがないか点検します。

■ 耕うん爪の摩耗の見かた

<ナタ爪・揚土爪>

耕うん爪の爪摩耗率が約 60 % になっていると交換時期です。(図 4-30)

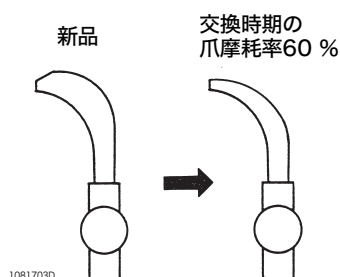


図 4-30 耕うん爪の摩耗 (ナタ爪・揚土爪)

<ハイブリッド爪>

耕うん爪先端の切り欠きがなくなったときに交換時期です。(図 4-31)

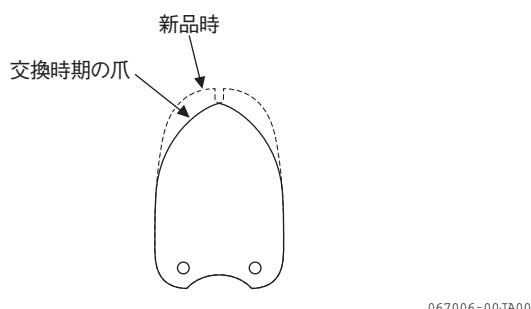


図 4-31 耕うん爪の摩耗 (ハイブリッド爪)

耕うん爪の交換のしかた

⚠ 注意

爪の向きと刃面の方向を間違えないように注意してください。思わぬけがをすることがあります。

	正しい付けかた	間違った付けかた
正転作業 (正転爪)	進行方向 ←、回転方向 ↻ (時計回り)	爪の先から土にくい込む付けかたは誤りです。
逆転作業 (逆転爪)	進行方向 ←、回転方向 ↻ (反時計回り)	爪の先から土にくい込む付けかたは誤りです。

図 4-32 爪の取付方向

【重要】

<Z・Z2仕様>では、耕うん時の爪の回転力によるミニ耕うん機の飛び出し(ダッシュ現象)を防ぐために、内側の爪と外側の爪が、それぞれ逆向きに回転する機構を採用しています。

耕うん爪を取り付けるときは、爪の種類や本数、爪の向き、回転方向に注意して、正しく取り付けてください。間違って取り付けると、故障の原因になります。

1. 耕うん爪の取付ボルトを外して、爪を交換します。(図 4-33、図 4-34)

<ナタ爪・揚土爪>

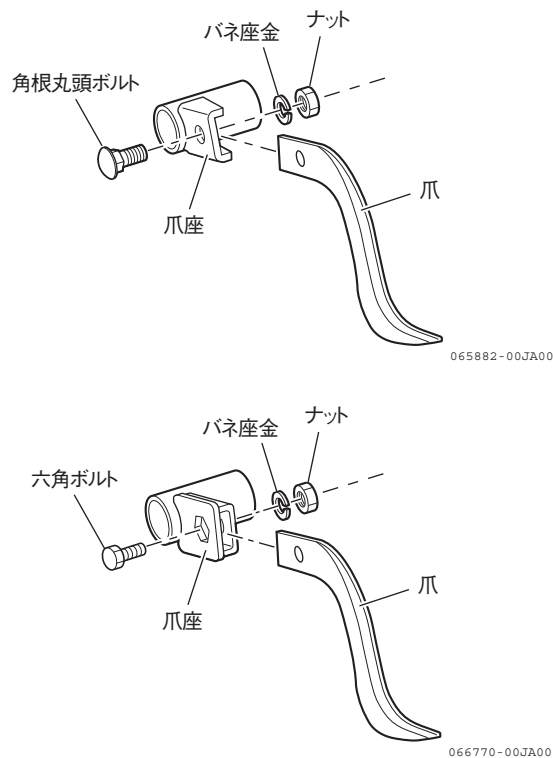


図 4-33 爪交換（ナタ爪・揚土爪）

<ハイブリッド爪>

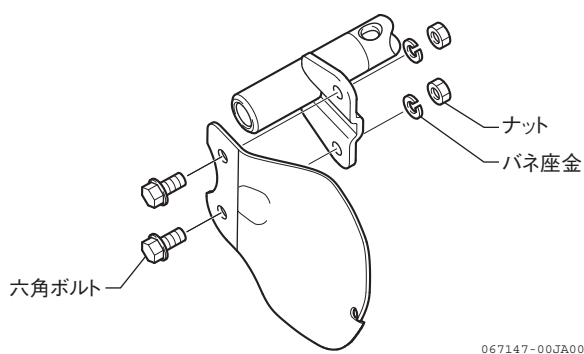


図 4-34 爪交換（ハイブリッド爪）

【参考】

ハイブリッド爪を取り付けるとき、左右を間違えないように爪軸と爪の刻印を確認してください。
左側は、爪軸「L」と爪「W33L」を、右側は爪軸「R」と爪「W33R」をそれぞれ取り付けます。
左右共に凹み部分を外側に向けて取り付けます。

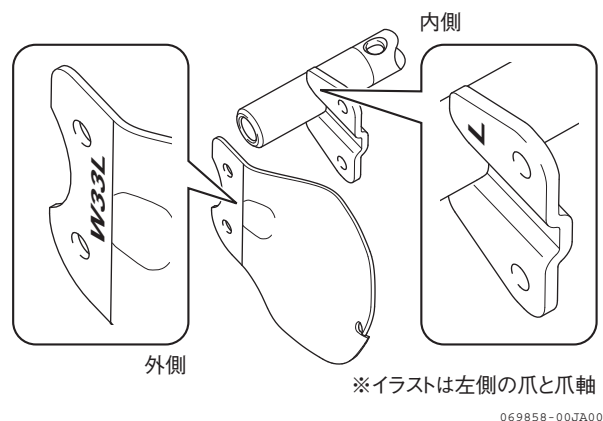


図 4-35 ハイブリッド爪 刻印

2. 交換後は取付ボルト、取付ナットを締めます。

<YK450MR>

ナタ爪	左	5本
	右	5本

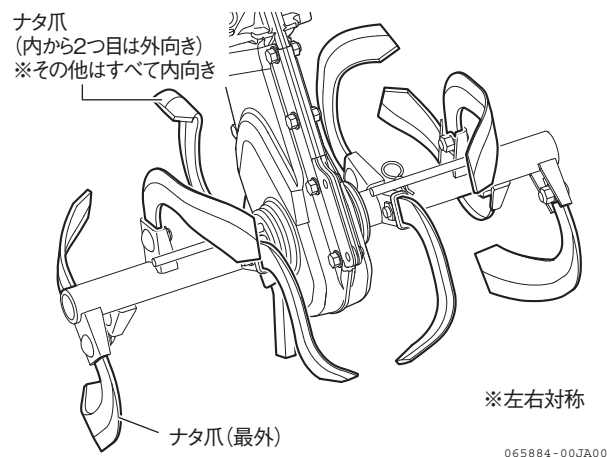


図 4-36 爪の取付方向

<YK650MR/YK650MR, L>

ナタ爪	左	6本
	右	6本

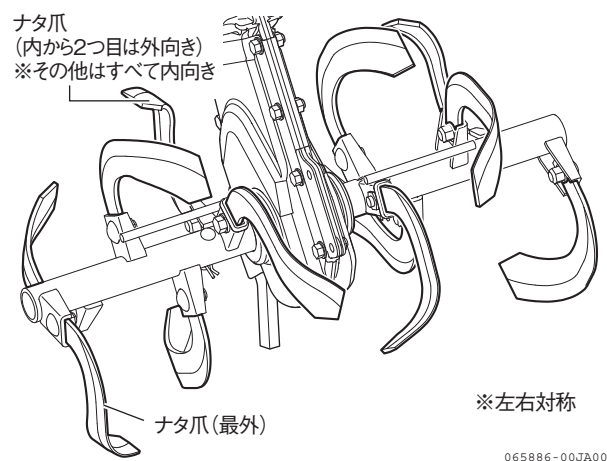


図 4-37 爪の取付方向

<YK450MR, Z/YK650MR, Z/
YK650MR, ZL/YK650MR, Z2L>

ナタ爪	左	4本
	右	4本
偏心直爪	左	1本
	右	1本
ヒネリ爪	左	1本
	右	1本

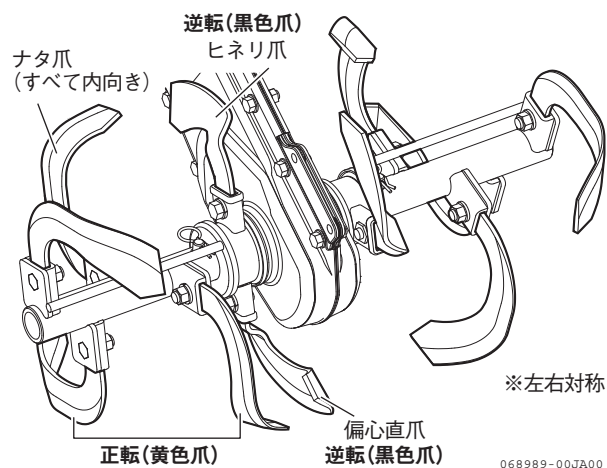


図 4-38 爪の取付方向

<YK450MR, UVH/YK650MR, UVH/
YK650MR, UVHL>

ハイブリッド爪	左	6本
	右	6本

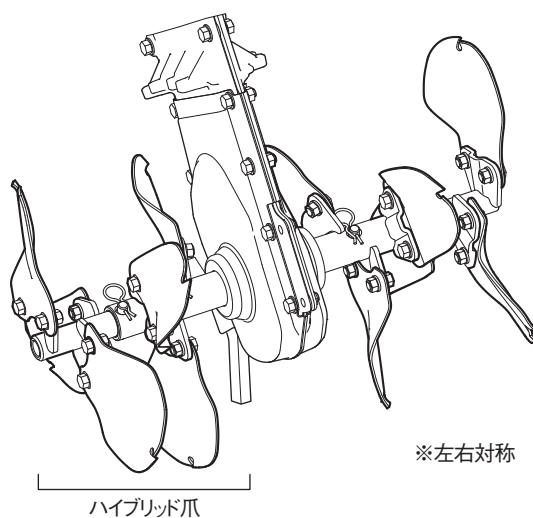


図 4-39 爪の取付方向

<YK650MR, UVT/YK650MR, UVTL>

ナタ爪	左	3本
	右	3本
揚土爪	左	2本
	右	2本
偏心揚土爪	左	1本
	右	1本

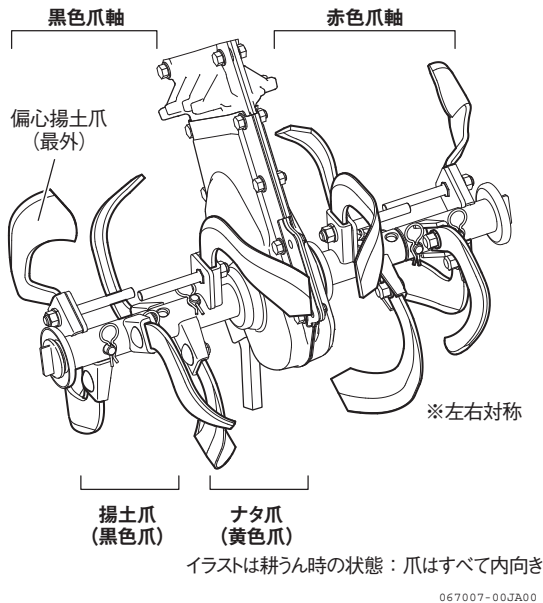


図 4-40 爪の取付方向

抵抗棒の交換のしかた<標準・UV仕様>

1. 取付ボルトを外して、抵抗棒を交換します。
(図 4-41)

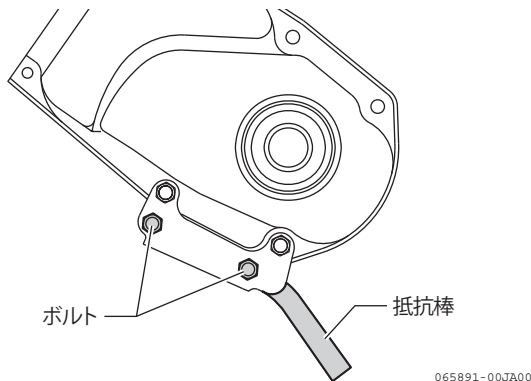


図 4-41 抵抗棒

2. 交換後は、取付ボルトを締めます。

点火プラグの点検・掃除・交換のしかた

⚠ 警告

点火プラグの点検・掃除・交換は、運転前に行ってください。運転中、および運転直後は点検・掃除・交換をしないでください。高温部でヤケドをするおそれがあります。

電極部が焼けたり、損耗または破損している点火プラグを使用すると、エンジンの不調や排ガス不良になります。
定期的に点火プラグの点検・掃除をしてください。

■ 点検のしかた

1. ボンネットを外します。(ツメ:4カ所) (図 4-42)

【参考】

両側のツメ付近を内側に押すと、ボンネット中央が浮き上がります。

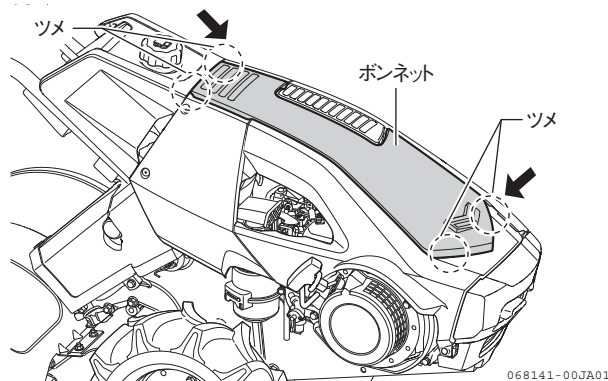


図 4-42 ボンネット

2. リコイルカバーを外します。
(ねじ:6本、ツメ:1カ所) (図 4-43)

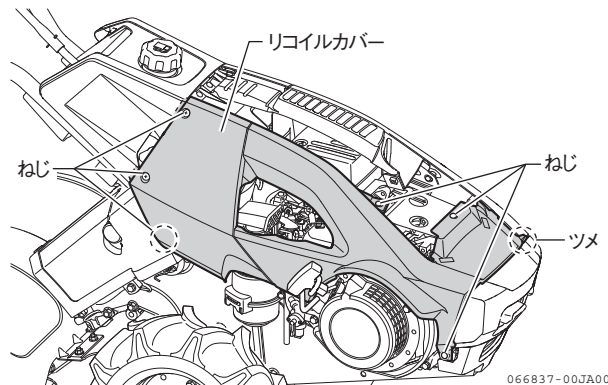


図 4-43 リコイルカバー

3. プラグコードを外します。
4. 付属のプラグレンチを使用して点火プラグをエンジンから外します。
5. 点火プラグの電極部の焼け具合、損耗の程度を点検します。
6. 火花ギャップ（電極すき間）を0.7 mmに調整します。（図 4-45）
7. 点火プラグを元通りに取り付け、プラグコードを確実に差し込みます。（図 4-46）

【参考】

付属のプラグレンチの中にはプラグ保持用のゴムが内蔵されています。プラグレンチに点火プラグを差し込んだ状態で、穴にドライバーなどを差し込み、取り外しや取り付けを行います。（図 4-44）

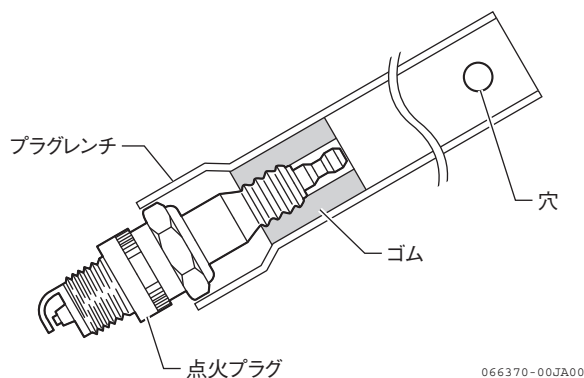


図 4-44 プラグレンチ

【重要】

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないように、プラグレンチに点火プラグを差し込んでからプラグレンチで締め付けてください。

■ 掃除のしかた

電極部をワイヤブラシで掃除します。

■ 交換のしかた

電極部が損耗または、破損したものは新品と交換します。点検のしかたの要領で点火プラグを外し、交換してください。

標準点火プラグ	NGK製(BP6HS)
---------	-------------

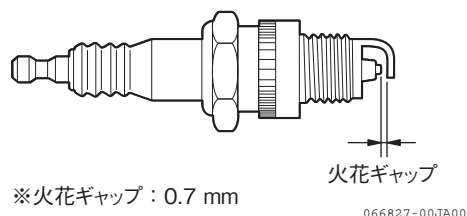


図 4-45 火花ギャップ

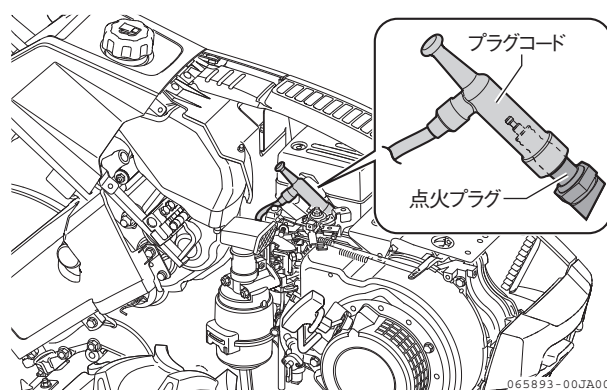


図 4-46 交換のしかた

タイヤの空気圧の調整のしかた

⚠ 注 意

タイヤの空気圧の入れすぎや、過度に少ない場合、タイヤが破裂して思わぬけがをするおそれがあります。

左右のタイヤの空気圧を118 kPa (1.2 kg/cm²) に調整します。(図 4-47)

左右のタイヤの空気圧が均等になっていないと、運転中にハンドルを取られることがあります。

※イラストは、YK650MR, Zをモデルにしています。

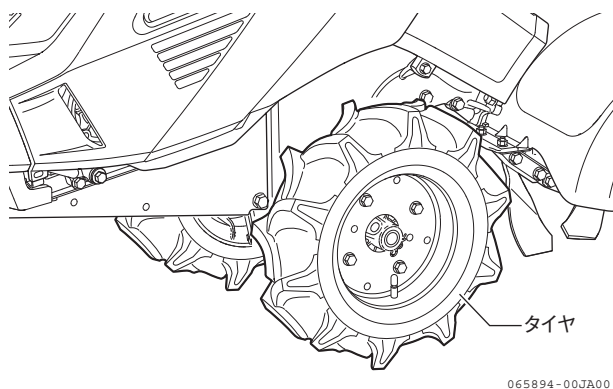


図 4-47 タイヤの空気圧調整

燃料パイプ・電気配線の点検のしかた

⚠ 注 意

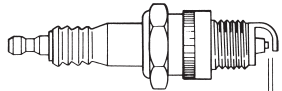
ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2 年ごとに交換してください。守らないと、燃料漏れによるヤケドや火災が起こり、けがをするおそれがあります。

燃料パイプの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料漏れがないことを確認します。

また、電気配線が他の部品に接触して、被覆のはがれや傷がないこと、接続部のゆるみがないことを点検します。

燃料パイプや電気配線が傷んでいる場合は、お買い上げいただいた特販店またはJAなどで修理してください。傷んでいなくても、2年ごとに交換するようにしてください。

不調診断のしかた

状 況	この確認をしてください	処 置	参照ページ
エンジンが始動しない場合	燃料タンクに燃料が入っていますか。	燃料を補給してください。	42
	エンジンの始動手順が間違っていますか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	17
	燃料コックレバーが「C」(閉)位置になっていませんか。	燃料コックレバーを「O」(開)位置にしてください。	17
	燃料に水が入っていませんか。	燃料コシ器に水がたまっていれば、燃料コシ器を外して、水抜きをしてください。	46
	ご購入後 1 カ月以上経過したガソリンを使用していませんか。	燃料タンクキャブレター内のガソリンを抜き、新しいガソリンを補給してください。	42
	点火プラグが悪くなっていますか。  1078832A NGK製 (BP6HS) 火花ギャップ	点火プラグを外して、火であぶるか、乾いた布でよく乾燥させてください。 点火プラグの火花ギャップを調節してください。または、新しい点火プラグと交換してください。それでも始動しない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。	52
各部に振動が多い場合	各リード線が外れていませんか。	コネクタ、リード線の接続を点検してください。	—
	エンジンが振れるのではありませんか。	エンジン取付ボルト、およびエンジンフレーム取付ボルトを強く、締め直してください。	47
エンジンの力がない場合	エアクリーナーにゴミが詰まっていますか。	エレメントを外し、きれいに掃除するか交換してください。	46
	エンジンオイル量が少なくなっていますか。	エンジンオイルを補給してください。また、古くなっている場合は、新しいエンジンオイルと交換してください。	43
	エンジンの回転が上がりますか。	アクセルレバー取り付け位置が動いていたら、元の位置に確実に固定してください。	—
		アクセルワイヤのセット位置を変えてください。	
	エンジンの圧縮がないのではありませんか。	点火プラグを締めてください。それでも改善しない場合は、ピストンリングなどの摩耗も考えられます。お買い上げいただいた特販店、またはJAに相談してください。	52
主クラッチレバーを「入」位置にしても走行しない場合	ベルトが伸びて、スリップしていませんか。	ベルトの張りを確認してください。	47
耕深調節棒の操作ができない場合	耕深調節棒に泥や草が付着していませんか。	泥や草を取り除き、耕深調節棒部の摺動部分にオイルを塗ってください。	26
旋回レバーを「旋回」位置にしても、左右のタイヤが常に同じ回転をする場合 (旋回しにくい)	ワイヤがゆるんでいませんか。	お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。	47

保管するときは

⚠ 注 意

- ミニ耕うん機を高いところに保管しないでください。また、ハンドル部を利用してミニ耕うん機を吊り下げての保管もしないでください。落下するおそれのある保管方法は絶対にしないでください。
- 格納（保管）は、ミニ耕うん機が倒れたり動いたりしない平たんで安定した場所に格納してください。
- 耕うん爪などの突起部が露出した状態で保管しないでください。
＜標準・Z・Z2仕様＞は、リヤシートを下ろしてください。
＜UV仕様＞は、ロータリースイングカバーとロータリーサイドカバーを閉じてください。
- ミニ耕うん機にカバーをして保管する場合は、耕うん爪などの突起物でけがをしないように、壁など人が近づかない方向に向けて保管してください。

※ イラストは、YK650MR, Zをモデルにしています。

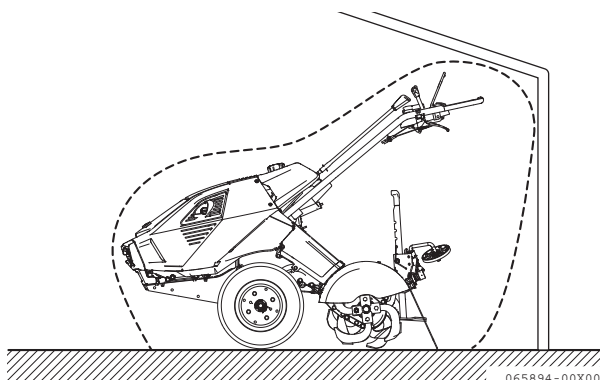


図 5-1 ミニ耕うん機の保管方法

ミニ耕うん機は、直射日光や雨水のあたらない、風通りのよい屋内で保管します。雨水などがエアクリナーやキャブレターにかかると、エンジンの故障などにつながります。

特に長期保管するときは (1カ月以上)

【重要】

1カ月以上ミニ耕うん機を使用しない場合は、必ず燃料タンク、キャブレター、燃料コシ器の中の燃料を完全に抜き取ってください。

抜き取らないと、エンジン不調の原因になります。

保管のしかた

エンジンの手入れ

1. ボンネットとリコイルカバーを外します。
外しかたは52ページの「点検のしかた」を参照ください。
2. プラグコードを外します。
3. 点火プラグをプラグレンチ（付属品）で外します。プラグレンチは、お手持ちのドライバーなどと合わせてご使用ください。（図 5-2）

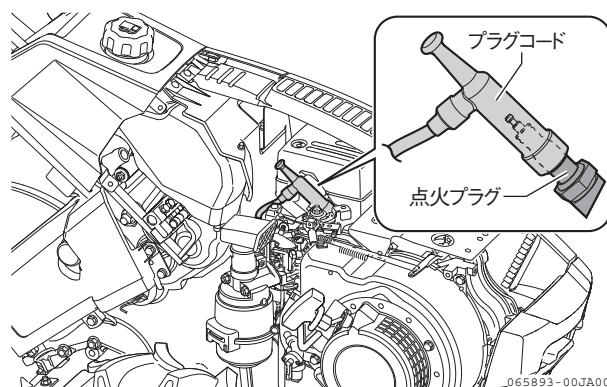


図 5-2 点火プラグ

4. プラグの取り付けいていた穴からガソリンエンジン用のエンジンオイルを約2～3 cc入れます。
5. 点火プラグを外すときの逆の手順で取り付けます。

【重要】

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないように、はじめに手で締め込んでから、プラグレンチで締め付けてください。

6. リコイルスタータを軽く引いて、重たくなったところ（圧縮位置）で止めます。
7. ボンネットとリコイルカバーを取り付けます。

燃料の抜き取り

燃料タンク・キャブレター・燃料コシ器の中の燃料を完全に抜き取ります。

作業方法は、42 ページの「燃料の点検・補給のしかた」を参照ください。

タイヤの保管

長期格納のときは、タイヤの下に木台を敷いてください。

トラックへの積み・降ろしのしかた

⚠ 警告

ロープなどを使って人力で荷台へ引き上げたり、人力で持ち上げたりしないでください。落下によりけがをするおそれがあります。

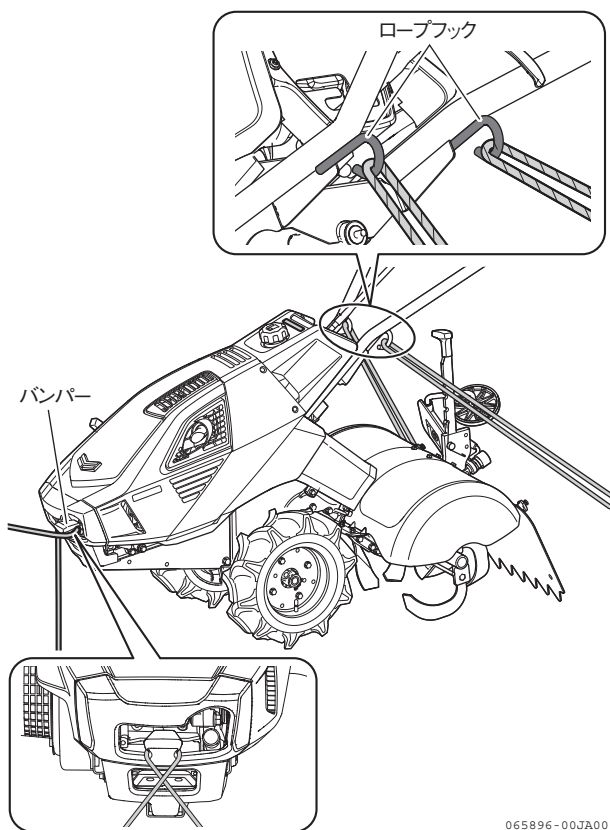
【参考】

トラックへの積み・降ろしのしかたは、同梱の「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」の記載内容をお読みになり、注意事項を守ってください。

トラックの荷台へロープで固定する場合は、バンパーとロープフックにロープをかけてください。

(図 6-1)

※イラストは、YK650MR, Zをモデルにしています。



065896-00JA00

図 6-1 ロープ固定

【重要】

輸送時は、燃料コックレバーを「C(閉)」の位置にしてください。

エンジンの故障の原因になります。

主要諸元

名称			ヤンマーミニ耕うん機					
型式名			ヤンマー K0024					
販売型式名			YK450MR	YK650MR	YK650MR, L			
機体寸法	全長	(mm)	1470		1500			
	全幅	(mm)	610					
	全高	(mm)	1130		1110			
機体質量			(kg)	80	82	84		
エンジン	型式名		GB131		GB181			
	種類		空冷4サイクルOHVガソリンエンジン					
	総排気量		(L{cc})	0.126{126}		0.181{181}		
	定格出力/回転速度		(kW{PS}/rpm)	2.0{2.7}/1600		3.0{4.1}/1600		
	最大出力		(kW{PS})	3.0{4.2}		4.6{6.3}		
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン(レギュラーガソリン)					
	燃料タンク容量		(L)	2.4				
	始動方式		リコイルスタータ方式(iスタート)					
	エアクリーナー		オイルバス					
	エンジンオイル規定量		(L)	0.5				
走行部	車輪		タイヤ 3.50-7(φ350)		タイヤ 4.00-7(φ400)			
	輪距		(mm)	外幅450		外幅460		
	主クラッチ形式		ベルトテンション式(デッドマン)					
	操向クラッチ形式		デフ					
	走行変速段数		(段)	前進2、後進1				
	走行速度	前進	低速	(m/s)	0.3		0.35	
			高速	(m/s)	1.14		1.31	
		後進	(m/s)	0.3		0.35		
	車軸形状	形状	丸軸					
		軸径	(mm)	φ20				
PTO 回転速度	正転	(rpm)	202					
	逆転	(rpm)	-					
ロータリー	駆動方式		センタードライブ(チェン駆動)					
	変速段数		正転1					
	爪回転外径		(mm)	φ330				
	耕幅		(mm)	500	550			
	耕うん軸形状	形状	丸軸					
		軸径	(mm)	φ25				
	爪形状		ナタ(ミニ正宗)					
	耕深調整		調節式ソリ(ノッチ式)					
ハンドル上下調節			ワンタッチ4段					

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

名称			ヤンマーミニ耕うん機					
型式名			ヤンマー K0024		ヤンマー K0025			
販売型式名			YK450MR, Z	YK650MR, Z	YK650MR, ZL	YK650MR, Z2L		
機体寸法	全長	(mm)	1470		1500			
	全幅	(mm)	610					
	全高	(mm)	1130		1110			
機体質量			(kg)	83	85	87	86	
エンジン	型式名		GB131		GB181			
	種類		空冷4サイクルOHVガソリンエンジン					
	総排気量		(L{cc})	0.126{126}	0.181{181}			
	定格出力/回転速度		(kW{PS})/rpm	2.0{2.7}/1600	3.0{4.1}/1600			
	最大出力		(kW{PS})	3.0{4.2}	4.6{6.3}			
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン(レギュラーガソリン)					
	燃料タンク容量		(L)	2.4				
	始動方式		リコイルスタータ方式(iスタート)					
	エアクリーナー		オイルバス					
	エンジンオイル規定量		(L)	0.5				
走行部	車輪		タイヤ 3.50-7(φ350)		タイヤ 4.00-7(φ400)			
	輪距		(mm)	外幅450		外幅460		
	主クラッチ形式		ベルトテンション式(デッドマン)					
	操向クラッチ形式		デフ					
	走行変速段数		(段)	前進2、後進1		前進3、後進1		
	走行速度	前進	低速	(m/s)	0.3		0.35	
			中速	(m/s)	—		0.49	
			高速	(m/s)	1.14		1.31	
	車軸形状	後進	(m/s)	0.3		0.35		
		形状	丸軸					
	車軸形状	軸径	(mm)	φ20				
PTO 回転速度		正転	(rpm)	202		232		
		逆転	(rpm)	200		230		
ロータリー	駆動方式		センタードライブ(チェン駆動)					
	変速段数		正転1					
	爪回転外径		(mm)	φ330				
	耕幅		(mm)	500	550			
	耕うん軸形状	形状	丸軸					
		軸径	(mm)	φ25				
	爪形状		ナタ(ミニ正宗)					
	耕深調整		調節式ソリ(ノッチ式)					
ハンドル上下調節			ワンタッチ4段					

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

名称			ヤンマーミニ耕うん機									
型式名			ヤンマー K0024									
販売型式名			YK450MR, UVH		YK650MR, UVT		YK650MR, UVH		YK650MR, UVTL		YK650MR, UVHL	
機体寸法	全長 (mm)		1470						1500			
	全幅 (mm)		550									
	全高 (mm)		1130						1110			
機体質量 (kg)			84		87		86		89		88	
エンジン	型式名		GB131		GB181							
	種類		空冷4サイクルOHVガソリンエンジン									
	総排気量 (L{cc})		0.126{126}		0.181{181}							
	定格出力/回転速度 (kW{PS})/rpm		2.0{2.7}/1600		3.0{4.1}/1600							
	最大出力 (kW{PS})		3.0{4.2}		4.6{6.3}							
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン(レギュラーガソリン)									
	燃料タンク容量 (L)		2.4									
	始動方式		リコイルスタータ方式(iスタート)									
	エアクリーナー		オイルバス									
	エンジンオイル規定量 (L)		0.5									
走行部	車輪		タイヤ 3.50-7(φ350)						タイヤ 4.00-7(φ400)			
	輪距 (mm)		外幅310・450						外幅320・460			
	主クラッチ形式		ベルトテンション式(デッドマン)									
	操向クラッチ形式		デフ									
	走行変速段数 (段)		前進2、後進1									
	走行速度	前進	低速 (m/s)	0.3						0.35		
			高速 (m/s)	1.14						1.31		
		後進	(m/s)	0.3						0.35		
	車軸形状	形状	丸軸									
		軸径 (mm)	φ25									
PTO 回転速度	正転 (rpm)		202									
	逆転 (rpm)		380									
ロータリー	駆動方式		センタードライブ(チェン駆動)									
	変速段数		正転1、逆転1									
	爪回転外径 (mm)		φ334									
	耕幅 (mm)		330・500		正260・500 逆320・520		330・500		正260・500 逆320・520		330・500	
	耕うん軸形状	形状	丸軸									
		軸径 (mm)	φ25									
	爪形状		ハイブリッド爪		揚土爪+ナタ (ミニ正宗)		ハイブリッド爪		揚土爪+ナタ (ミニ正宗)		ハイブリッド爪	
	耕深調整		調節式ソリ(ノッチ式)									
ハンドル上下調節			ワンタッチ4段									

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

廃棄をするときは

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。このミニ耕うん機に使用されている、燃料・オイル・フィルター・ベルト・ホースなどは、正しく処分してください。

ミニ耕うん機の廃棄

【重要】

ミニ耕うん機を廃棄するときは、お買い上げいただいた特販店またはJA、もしくは廃棄物処理業者に依頼してください。法律に違反する行為は絶対にしないでください。詳しくは、お住まいの自治体の指導に従ってください。

廃油の処理

オイル交換で出た廃油は、河川や下水道、溝、空地などに絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。

廃油の処分については、お買い上げいただいた特販店またはJAまでご相談ください。

ホース類の処理

ホース類の合成ゴム製品は、放置したり、捨てたりせず、お買い上げいただいた特販店またはJAへお渡しください。資源としてリサイクルされます。

9章 サービスと保証について

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要になるものです。お読みになった後は、大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

ミニ耕うん機の調子が悪いときは、55 ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置してください。それでもなお不具合があるときは、つぎの「ご連絡していただきたい内容」を明確にして、お買い上げいただいた特販店またはJAまでご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 販売型式名と製造番号
- エンジンの場合は、エンジンの番号
- ご使用状況は？
(車速やどんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
(約□□アールまたは約□□時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお伝えください。

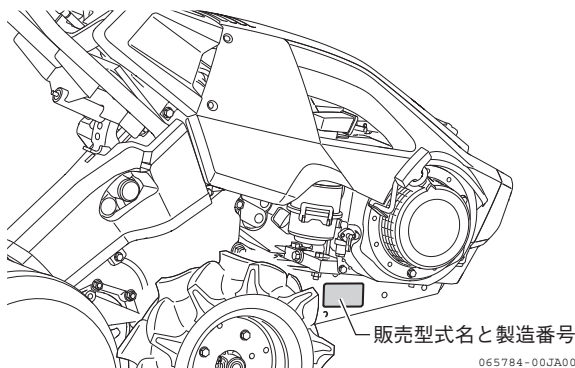


図 9-1 販売型式名と製造番号

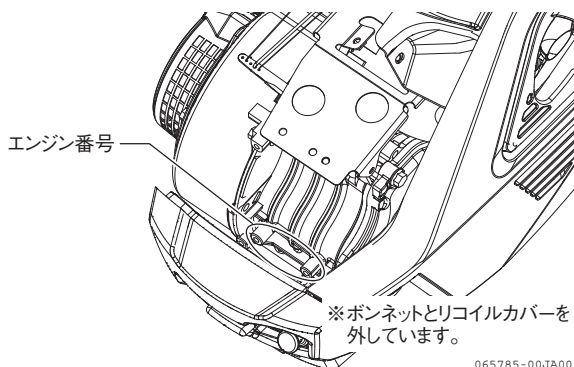


図 9-2 エンジン番号

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については、納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

メーカー純正部品・オイルについて

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ね、厳しい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。

部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルをご指定ください。



図 9-3 純正部品・純正オイル

改造について

勝手な改造はしないでください。安全性・性能・耐久性の保証の対象外となります。

英数字

QR コード 5
UV リヤシート 8, 33, 35

あ

アクセルレバー 8, 11

え

エアクリーナー 15, 46
エレメント 46
エンジンオイル 43
エンジンスイッチ 7, 11
エンジン番号 1

き

機体銘板 1

け

検油ゲージ 44
検油窓 45

こ

耕うん爪 48
耕深調節棒 13, 26

し

主クラッチレバー 8, 11

せ

旋回レバー 12, 21

ち

チョークレバー 14, 18

て

抵抗棒 48, 52
点火プラグ 52, 53

と

ドレンプラグ 44, 45

な

ナタ爪 48, 49, 50, 51

ね

燃料キャップ 7, 42
燃料コシ器 43, 46
燃料コックレバー 14, 17

は

ハイブリッド爪 48, 49, 50
ハンドル上下レバー 13, 23

ひ

ヒネリ爪 51
火花ギャップ 53
尾輪 13, 14, 23

ふ

プラグレンチ 53

へ

ベルトカバー（赤）（白） 7, 38
偏心直爪 51
偏心揚土爪 52
変速レバー 12, 19

み

溝底幅切り替えプレート 8, 28, 29
ミッションオイル 45

よ

揚土爪 48, 49, 50, 52

り

リコイルカバー 8
リコイルスタータ 14, 18
リヤシート 8, 28

ろ

ロータリーカバー 8, 37
ロータリーカバー調節ノブ 8, 25
ロータリーサイドカバー 8, 25
ロータリースイングカバー 8, 25
ロータリーセンターカバー 8
ロープフック 8, 58

わ

ワンタッチキャブドレン 15, 43
ワンタッチ切り替え尾輪 13, 23

11章 部品リスト(部品早見表)

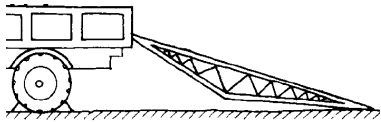
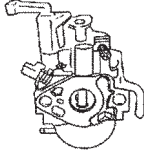
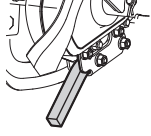
主要消耗部品

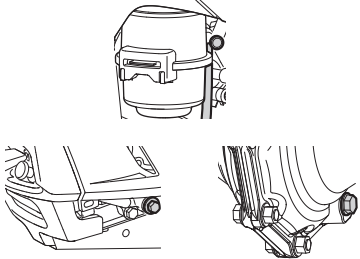
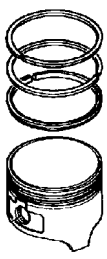
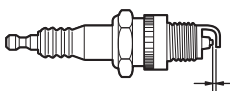
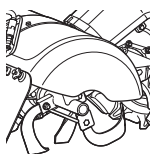
表 11-1 主要消耗部品

No.	品名	コードNo.	YK450MR	YK650MR	YK650MR, L	YK450MR, Z	YK650MR, Z	YK650MR, ZL	YK650MR, Z2L	YK450MR, UVH	YK650MR, UVT	YK650MR, UVH	YK650MR, UVTL	YK650MR, UVHL
1	Vベルトローエッジコグ SB41HP2	1A2920-12110	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	Vベルトローエッジコグ SB41HP5	1A2920-12120	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	アクセルワイヤ	1A2920-55510	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	主クラッチワイヤ	1A2920-55540	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	デフロックワイヤ	1A2920-55560	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	点火プラグ(BP6HS)	165002-14620	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	車軸オイルシール	1A2740-24020	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—
8	車軸オイルシール	1A2740-24070	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○
9	耕うん軸オイルシール	1A2480-42150	○	○	○	—	—	—	—	○	○	○	○	○
10	耕うん軸オイルシール (内)	1A2480-42160	—	—	—	○	○	○	○	—	—	—	—	—
11	耕うん軸オイルシール (外)	1A2171-90050	—	—	—	○	○	○	○	—	—	—	—	—
12	リヤシート	1A2920-44650	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—
13	YK450MR爪セット	7A2920-43000	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14	MRT-E爪セット	7A2740-43150	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15	MRT-RZ爪セット	7A2740-43050	—	—	—	○	○	○	○	—	—	—	—	—
16	MRT-UV爪セット	7A2740-43000	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	○	—
17	YKMR、UVH爪セット	7A2920-43050	—	—	—	—	—	—	—	○	—	○	—	○
18	安全ピン 10×40	1A2680-43600	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○
19	平頭ピン 10×40	1A2920-43450	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—

12章 用語解説

本書の中で使われている用語の解説です。

用語	解説	参照 ページ
アユミ板 	耕うん機をトラックなどに積み・降ろしをするときに使用する板のこと。 アユミ板は、十分な強度があり、滑り止めの加工がされているものを使用してください。ブリッジとも呼ばれます。	12
エLEMENT 	エアクリーナーの構成部品の1つ。 空気の通り道にあり、吸気からチリやホコリを取り除きます。 エLEMENTで取り除かれたチリやホコリは、オイルだまりに落ちます。 耕うん機を長時間使用すると汚れがたまりますので、定期的に洗浄してください。	46
オイルバス式 エアクリーナー 	燃焼・爆発するために吸引される空気をきれいにするエアクリーナーの1種。 エアクリーナーの下側にエンジンオイルをため、エアクリーナー内の複雑な吸気の経路を通る途中で落ちるチリやホコリをエンジンオイルの粘性で吸着沈殿させます。 長時間使用すると、エンジンオイルの中に沈殿物がたまるので、定期的にガソリン用エンジンオイルを交換してください。	15、59他
キャブレター 	エンジンの燃料(ガソリン)を気化する部品のこと。	15、43他
コネクタ	配線と電気部品をつなぐカブラのこと。 多くはプラスチック製です。	55
摺動部	たとえば、クラッチレバーやアクセルレバーを操作すると、そのレバーの動きに合わせてクラッチ、エンジンなどが作動します。このレバーと作動部をワイヤなどで接続しています。このワイヤが「摺動部」です。摺動部の動きが悪くなると、オペレータの操作が作動部にうまく伝わらず、ミニ耕うん機をうまく操作できなくなります。	37
デフ デフロック	ミッション内部の構造のこと。 旋回レバーを「直進」位置にすると、左右のタイヤに同じ動力が伝わり、直進しやすくなります。この状態がデフロック状態です。 旋回レバーを「旋回」位置にすると、デフロックが解除され、左右のタイヤに速度差が生まれ、旋回しやすくなります。	12、47他
抵抗棒	 耕うん作業をスムーズに行うための装置です。 ほ場に抵抗棒がささることで、耕うん深さを確保できます。 抵抗棒も爪と同様、長時間作業をすると、摩耗します。 耕うん爪と同じタイミングで交換してください。	48、52

用語	解説	参照 ページ
ドレン(ホース) キャブドレン ドレンプラグ 	長期保管時には燃料を耕うん機から抜き取る必要があります。燃料を抜く場所がドレンです。 潤滑油などを交換する場合は、潤滑油のドレン部からオイルを抜き取り、ドレンプラグ(栓)を取り付けてから新しいオイルを補給します。	15、43、 44、45
培土	作物の根元に土を寄せること。	3
ハンチング	エンジン回転が不安定になること。	18
ピストンリング 	エンジンのピストン部に装着されている金属製のリング(輪)です。 ピストンリングは爆発漏れを防ぐ、エンジンシリンダ内の潤滑など、エンジンがスムーズに動くために重要な役割を担っています。	55
火花ギャップ (電極すき間) 	ガソリンエンジンの爆発には、点火が必要です。この点火を起こす部品をプラグと言います。 プラグ先端が電極になっていて、このすき間を火花ギャップと言います。 適切なすき間(火花ギャップ)がないと、火花が飛ばず、エンジンは爆発しません。	53
ほ場	耕うんする畑のこと。	2、27他
リード線	電気部品をつなぐコード(電気配線)のこと。	55
ロータリー 	耕うん作業をする部分のこと。 耕うん軸、耕うん爪、ロータリーカバーなどで構成されます。	4、11、 12他

